

## 第2次岩国市観光ビジョン（案）

令和●年●月

岩国市



# 目次

序章	1
1. 岩国市観光ビジョンの策定の趣旨	1
2. 岩国市観光ビジョンの位置づけ	1
3. 観光ビジョンの対象期間	1
第1章 岩国市の観光の現状と社会情勢	2
1. 社会情勢	2
2. 岩国市の観光の現状	10
3. まとめ	36
第2章 岩国市の観光振興における課題	37
1. 観光コンテンツ	37
2. 人材育成	37
3. 環境整備	38
第3章 岩国市の目指す観光振興の姿	39
1. 観光ビジョンの基本理念	39
2. 観光ビジョンの方向性	40
3. 観光ビジョンの基本戦略	42
第4章 岩国市の観光振興の方針・戦略	43
1. 錦帯橋周辺などの顕在資源を新たな発想で“みがく”	43
2. 市域の潜在資源を新たな活用で“いかす”	47
3. 一体的な観光振興に向けた新たな絆で“つなぐ”	51
4. 重点プロジェクト	55
参考資料	57
1. 市民アンケート調査	57
2. 観光客の動向調査	58
3. 観光事業者・団体ヒアリング	61

# 序章

## 1. 岩国市観光ビジョンの策定の趣旨

岩国市では、観光の目指すべき方向性を定め、多様な観光ニーズに対応する観光振興の推進を図るため、2015（平成 27）年に「岩国市観光ビジョン」（計画期間：2015（平成 27）年度～2022（令和 4）年度までの 8 年間）を策定しました。このビジョンは、本市の観光の担い手となるすべての人の共通のビジョンとしての役割を担ってきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症により、観光地や観光産業に大きな影響を与え、本市においても、観光客数の減少や旅行形態の変化など、観光を取り巻く環境は大きく変化したところです。

そうしたことから、ポストコロナ時代における本市の観光の目指すべき方向性を定め、その実現に向けた施策の推進を図るために「第 2 次岩国市観光ビジョン」を策定します。

## 2. 岩国市観光ビジョンの位置づけ

このビジョンは、第 3 次岩国市総合計画における観光関連施策の個別計画と位置づけ、市が策定する他の個別計画、国や山口県の計画との整合性を保ち、連携しながら観光振興を図ります。

## 3. 観光ビジョンの対象期間

このビジョンの対象期間は、2026（令和 8）年度から 2035（令和 17）年度までの 10 年間とします。

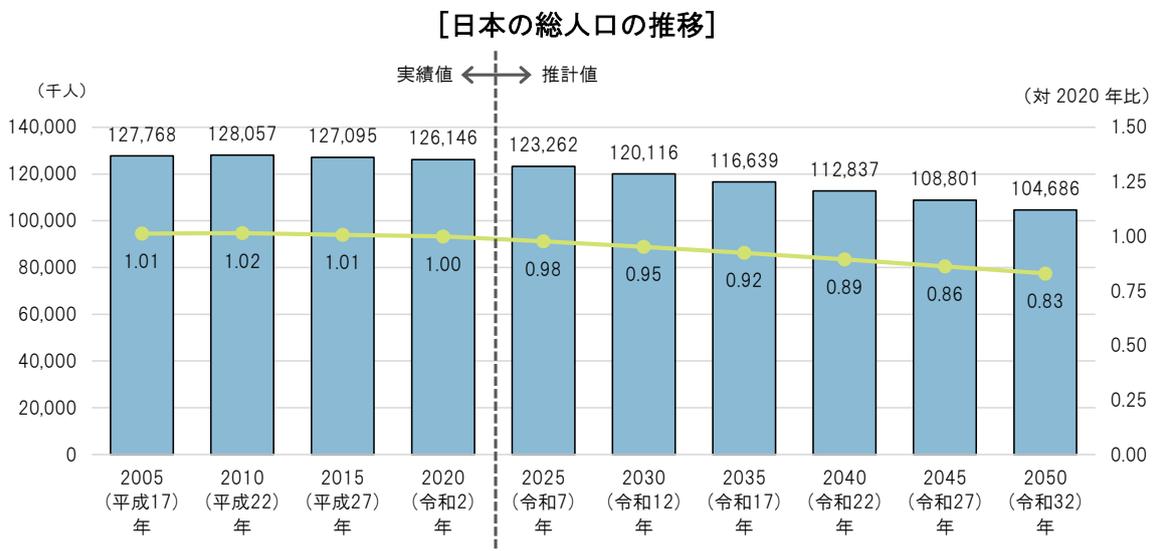
# 第1章 岩国市の観光の現状と社会情勢

## 1. 社会情勢

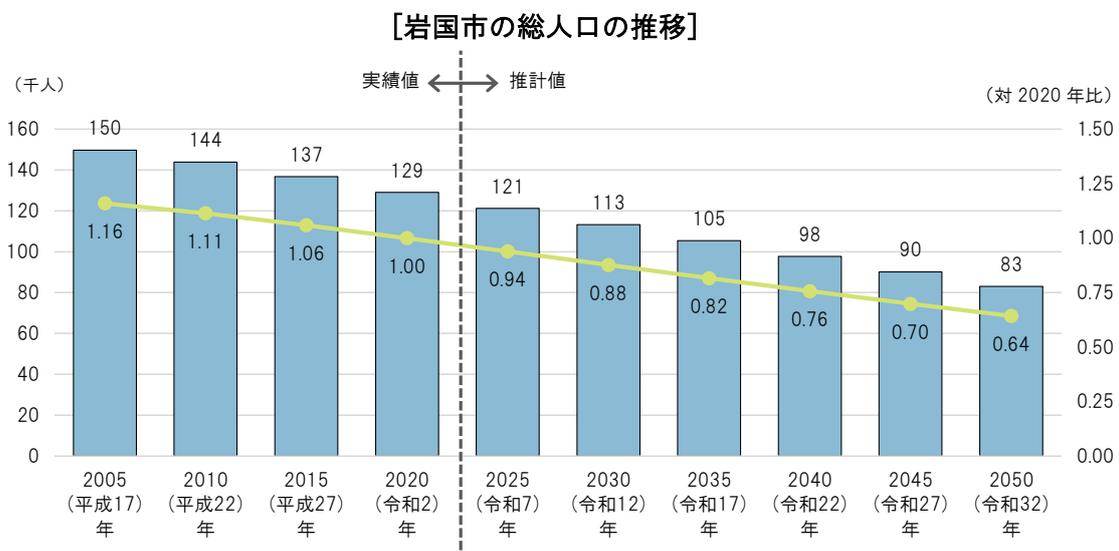
### (1) 人口動態

日本の総人口は2020（令和2）年に約1億2,614万人となっており、2010（平成22）年のピーク以降、人口減少が続いています。また、今後も人口減少傾向は続き、2050（令和32）年には2020（令和2）年の約83%にあたる約1億468万人まで減少すると推計されています。

また、岩国市においても年々人口が減少し、2020（令和2）年に約12.6万人となっていた人口は、2050（令和32）年には2020（令和2）年の約64%にあたる約8.3万人まで減少すると推計されています。



出典：総務省統計局「国勢調査結果」  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5（2023）年推計）」



出典：総務省統計局「国勢調査結果」  
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

## (2) 観光客数

### ① 日本人国内延べ旅行者数の推移

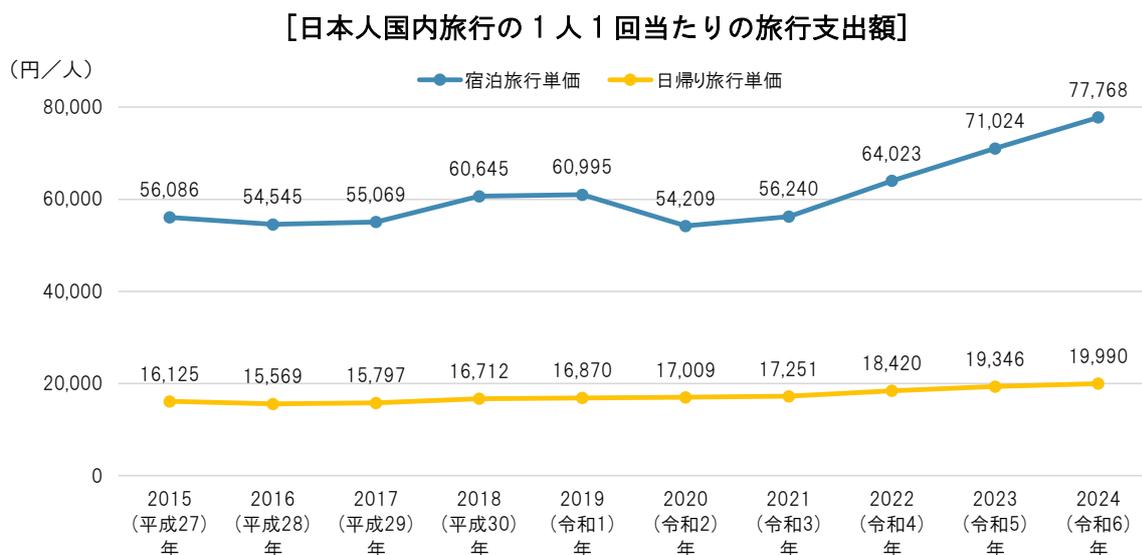
新型コロナウイルス感染症により大きく減少した日本人国内延べ旅行者数は、2022（令和4）年以降回復傾向にあり、2024（令和6）年の観光客数は、2019（令和元）年の日本人国内延べ旅行者数の約96%まで回復しています。



出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査

### ② 日本人国内旅行消費額の推移

日本人国内旅行の1人1回あたりの旅行支出額は、宿泊旅行、日帰り旅行ともに増加しており、2024（令和6）年は過去最高となっています。



出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査

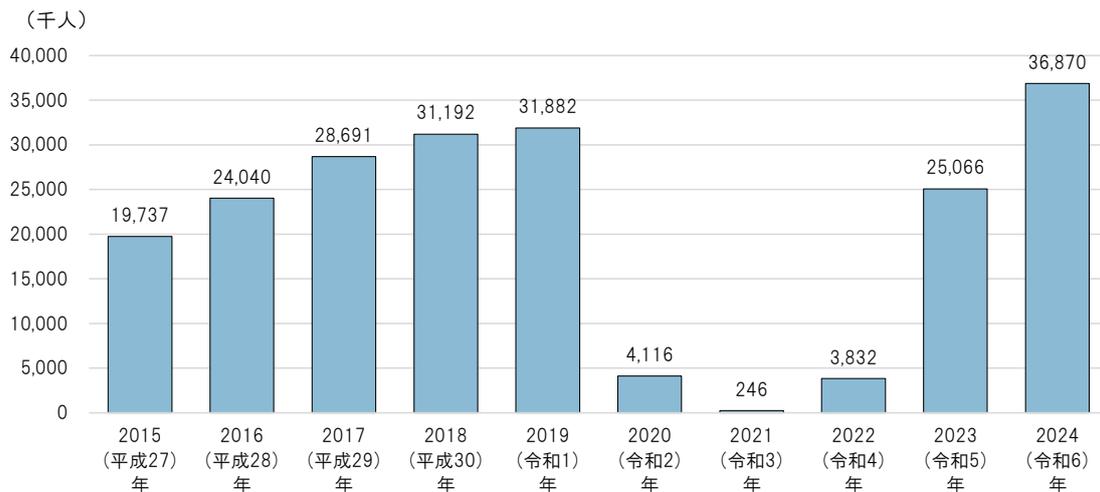
### (3) 訪日外国人観光客数

#### ① 訪日外国人観光客数の推移

訪日外国人観光客数は、2019（令和元）年に約 3,188 万人となりましたが、コロナ禍以降大幅に減少しています。2024（令和6）年には、訪日外国人観光客数が、過去最高となっています。

国別訪日外国人観光客数では、2024（令和6）年は、令和元年と比べ、韓国、台湾、米国、からの観光客が増加しています。

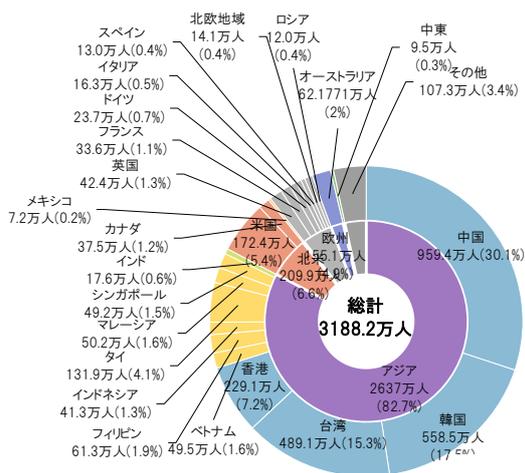
【訪日外国人観光客数】



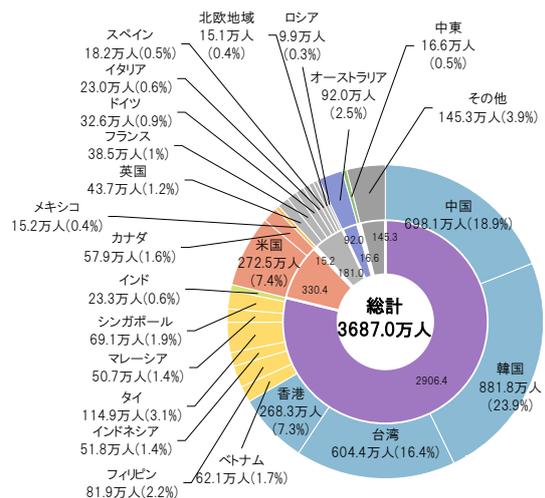
出典：日本政府観光局（JNTO）日本の観光統計

【国別訪日外国人観光客数】

2019（令和元）年



2024（令和6）年



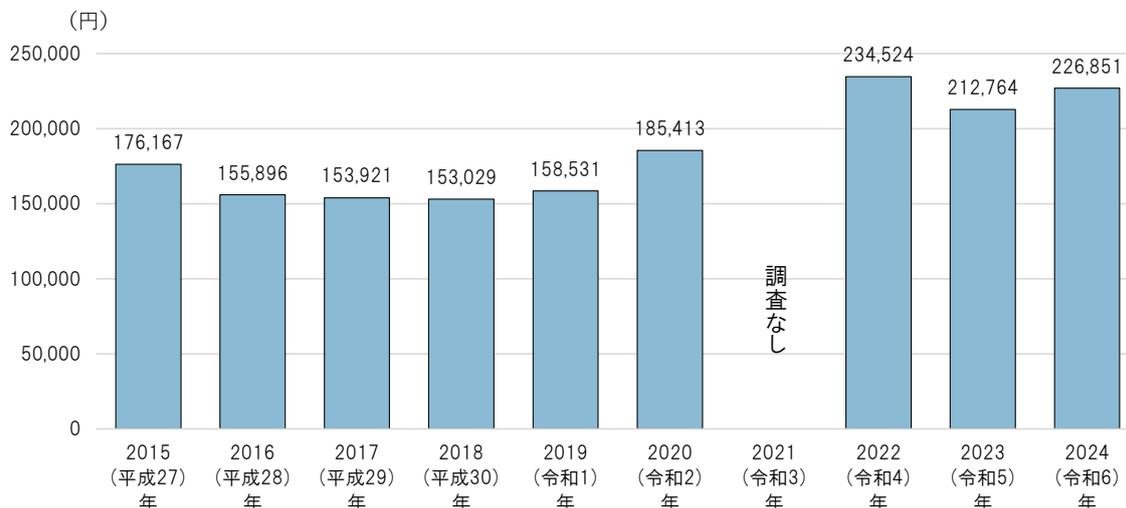
出典：日本政府観光局（JNTO）日本の観光統計

## ② 訪日外国人観光客 1人当たりの旅行支出額の推移

訪日外国人観光客の1人当たりの旅行支出額は、2022（令和4）年以降、大きく増加し、1人当たり20万円を超える支出額となっています。

費用別では、2024（令和6）年は、2019（令和元）年と比べ、宿泊費が大きく増加しています。

【訪日外国人観光客 1人当たりの旅行支出額】



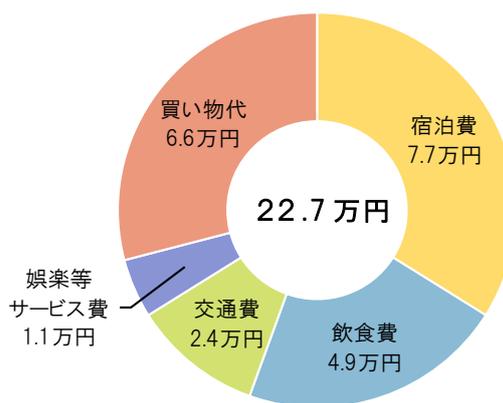
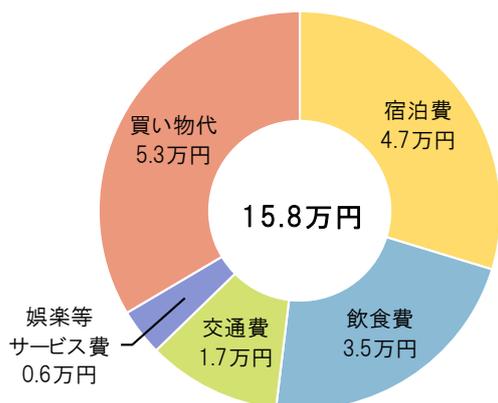
※「旅行支出額」は、旅行の総支出から「航空・船舶会社に支払われる国際旅客運賃」を除いた、「日本滞在中の支出[宿泊/飲食/交通/娯楽等サービス/買物など]」を指す

出典：観光庁 インバウンド消費動向調査

【訪日外国人観光客 1人当たり費用別の旅行支出額】

2019（令和元）年

2024（令和6）年



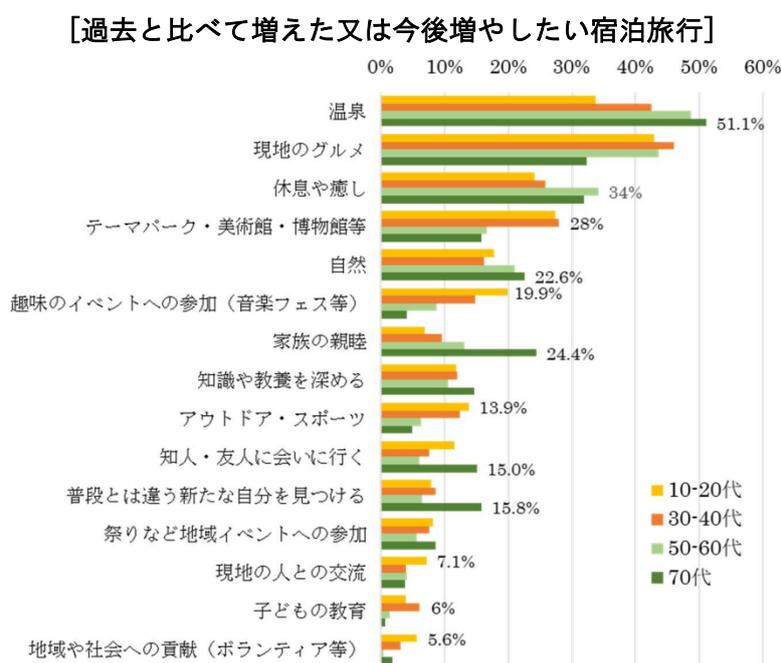
出典：観光庁 インバウンド消費動向調査

## (4) 近年の観光の動向

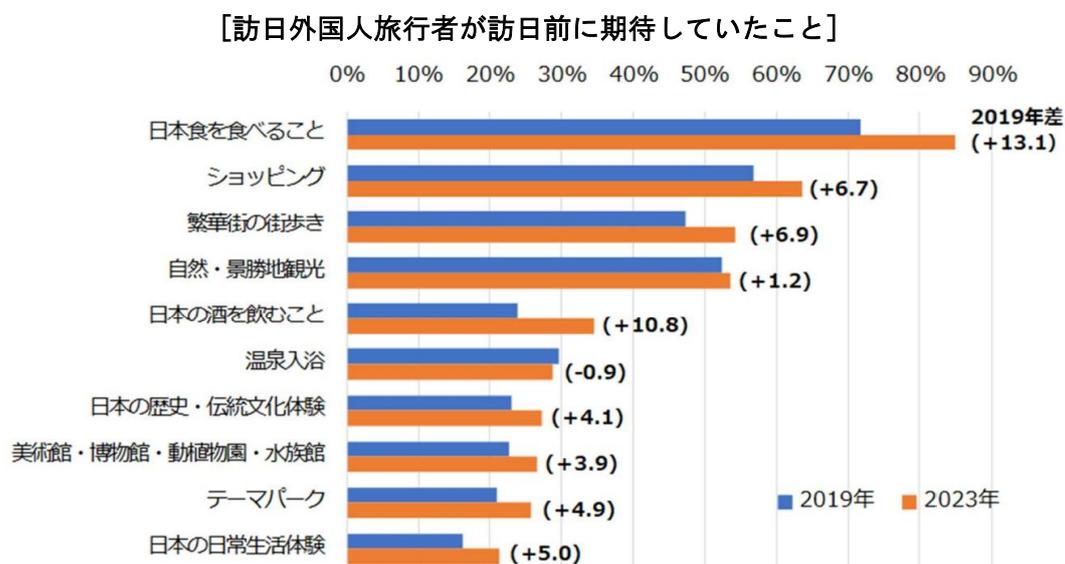
### ① ポストコロナにおける観光ニーズの変化

国内の旅行において、コロナ禍以降のニーズに変化が見られます。観光庁における「過去と比べて増えた又は今後増やしたい宿泊旅行」の調査では、「温泉」や「現地のグルメ」についてニーズが高まっています。年齢別にみると、10～40歳代では「テーマパーク・美術館・博物館等」や「アウトドア・スポーツ」へのニーズが高まっています。

また、訪日外国人における、旅行の目的の変化をみると、「日本食を食べること」や「日本の酒を飲むこと」など食に関するニーズと「日本の歴史・伝統体験」や「日本の日常生活体験」など日本の暮らしに関するニーズも高まっています。



出典：観光庁



出典：観光庁

## ② 観光 DX

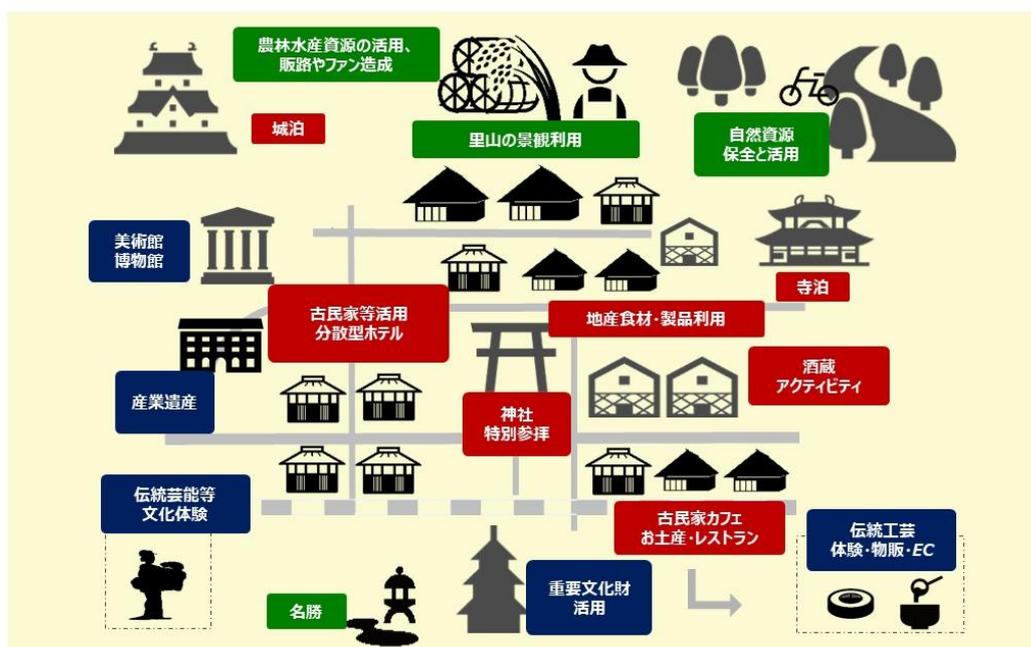
観光分野における DX を推進することで、旅行者の消費拡大、再来訪促進、観光産業の収益・生産性向上等を図り、稼ぐ地域を創出できます。事業者間・地域間のデータ連携の強化により、広域で収益の最大化を図ることで、地域活性化・持続可能な経済社会の実現が可能です。



出典：観光庁

## ③ 歴史的資源を活用した観光まちづくり

全国各地で歴史的資源である城や社寺、古民家、伝統文化等を面的に活用した観光コンテンツの造成等を図り、宿泊・滞在型コンテンツを軸として、インバウンドに魅力的な観光まちづくりが推進されています。



出典：観光庁

#### ④ サステナブルツーリズムの推進

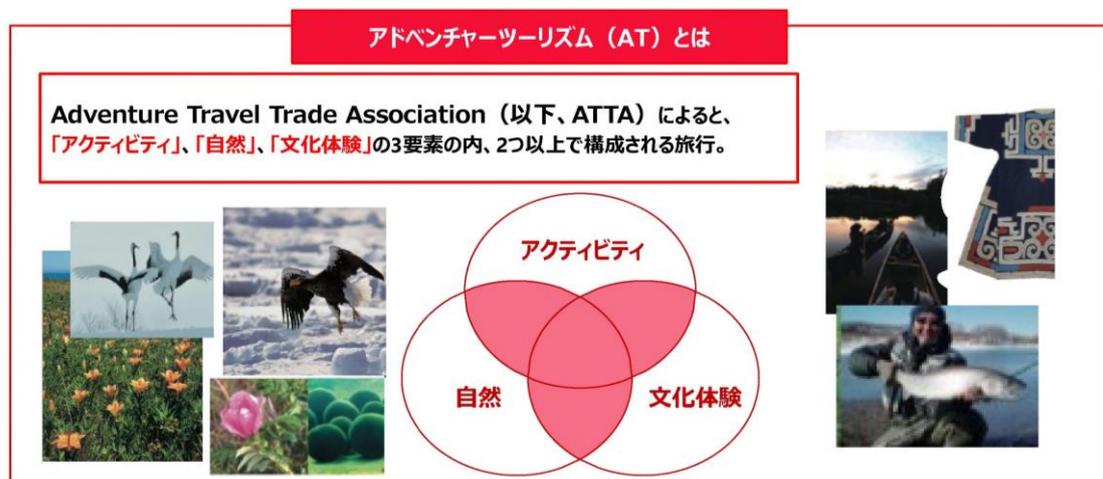
サステナブルツーリズムとは、訪問客、産業、環境、受入地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光であり、世界的に持続可能な観光に対する配慮や意識が高まっています。旅行者が地域の本質を味わいながら、地域への貢献を実感できる観光コンテンツを造成し、旅行者の観光行動による恩恵を地域の経済・社会・環境へ還元する好循環を加速させていくことが重要になります。



出典：観光庁

#### ⑤ アドベンチャーツーリズムの推進

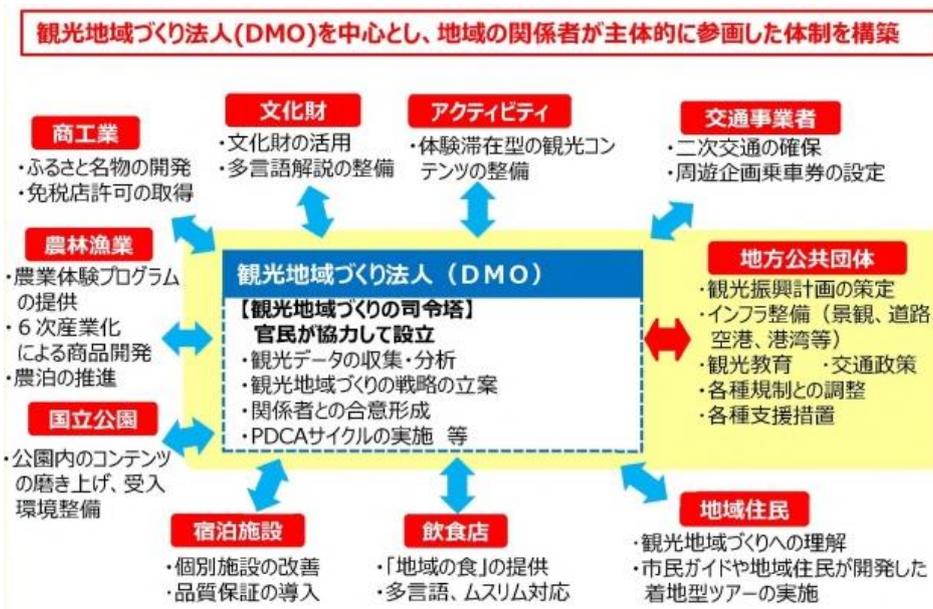
アドベンチャーツーリズムとは、「自然」、「アクティビティ」、「文化体験」の3要素のうち2つ以上で構成される旅行であり、旅行を通じて自分自身の変化や視野の拡大、学び等を得ることを目的としています。旅行者それぞれの興味・関心に応じたテーマ・ストーリー性のある滞在プランなど、その地域ならではの体験を求めていることが特徴で、自然・文化といった地域資源を活用し、深く体験・体感することで、国内外の観光客の消費額増加や満足度向上につながります。



出典：観光庁

## ⑥ 観光地域づくり法人(DMO)

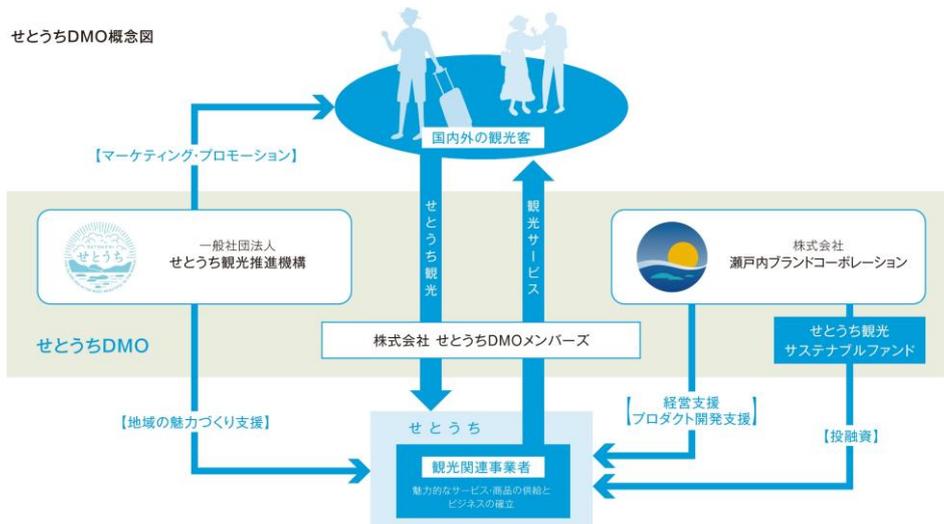
地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定し、戦略を実施していくことを目的とした法人です。地域の官民の関係者との効果的な役割分担を行い、観光地域づくり法人が観光地域づくりの一主体として個別事業を積極的に実施する場合があります。



出典：観光庁

## ●せとうち DMO

マーケティング・プロモーションを策定実行する一般社団法人せとうち観光推進機構と『せとうち観光活性化ファンド』を活用してプロダクト開発支援を行う株式会社瀬戸内ブランドコーポレーションで構成され、瀬戸内が有する幅広い観光資源を最大限活用しながら、多様な関係者とともに情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等を行い、地域の皆さまが主体となって行う観光地域づくりを推進しています。



出典：せとうち DMO

## 2. 岩国市の観光の現状

### (1) 岩国市の観光資源

#### ① 岩国市の観光資源



錦帯橋周辺

岩国城ロープウエー



岩国シロヘビの館



吉川史料館



柏原美術館



岩国エリア

岩国白蛇神社



雁木 八百新酒蔵(株)



五橋 酒井酒造(株)



金冠黒松 村重酒造(株)



由宇エリア

潮風公園みなとオアシスゆう



岩国市マイクロ生物館



広島東洋カープ由宇練習場



銭壺山



玖珂・周東エリア

森林体験交流施設丸太村



玖珂総合公園



中山湖



瀬祭 (株)瀬祭



やましろエリア

らかん高原交流センター



レイクプラザやさか



SOZU 温泉



金雀 (有)堀江酒造



道の駅ピュアラインにしき



美川ムーバレー



深谷峡温泉



錦川清流線



## ② 錦帯橋の世界文化遺産登録に向けた取組

錦帯橋は、山口県岩国市の錦川にかかる5連の橋となっており、日本三名橋に数えられ、豊かな自然を背景として、国の名勝に指定されています。

1673（延宝元）年、「流されない橋を」との願いのもと、知恵と技術の結集により創建され、川幅約200mを渡すその構造は、精巧かつ独創的で、美しい姿を誇ります。創建以来約350年を超えて、錦帯橋の技術と美しさは、今もなお守られ続けています。

錦帯橋は、2006（平成18）年11月に文化庁に提案書を提出し、世界文化遺産登録を目指して様々な取組を行っています。

### [これまでの取組]

年月	内容
2006(平成18)年11月	「世界遺産暫定一覧表」追加記載に向けた提案制度により、提案書「錦帯橋と岩国の町割」を山口県と岩国市が共同作成し、文化庁に提出。
2007(平成19)年1月	文化庁の審査結果が「継続審査」となる。
2007(平成19)年3月	「錦帯橋みらい構想 ～錦帯橋の歴史を繋げていくためにすべきこと～」策定。
2008(平成20)年1月	第1回錦帯橋国際シンポジウムを開催。
2008(平成20)年9月	文化庁の審査結果が発表される。岩国市の提案は「暫定一覧表」掲載には至らなかったものの、「暫定一覧表候補資産」として「カテゴリⅠa」の評価を得る。
2009(平成21)年6月	錦帯橋が世界文化遺産登録されるために必要な様々な課題について検討する「錦帯橋世界文化遺産専門委員会」を設置。
2010(平成22)年11月	第2回錦帯橋国際シンポジウムを開催。
2012(平成24)年3月	「錦帯橋みらい計画—基本方針—」策定。
2012(平成24)年11月	錦帯橋シンポジウム in 江戸を開催。
2013(平成25)年3月	「究極の名橋 錦帯橋」（錦帯橋論文集）完成。
2014(平成26)年3月	「錦帯橋みらい計画（基本計画）—錦帯橋を未来につなげるために—」策定。
2016(平成28)年11月	県・市・関係団体とで錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会設立。
2017(平成29)年11月	錦帯橋シンポジウムを開催。
2018(平成30)年2月	錦帯橋ロゴマークの発表。
2018(平成30)年12月	文部科学大臣に「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書」を提出。
2019(平成31)年3月	錦帯橋世界遺産国際意見交換会を開催。
2019(令和元)年10月	錦帯橋世界遺産登録推進PRポスターが完成。
2020(令和2)年3月	「錦帯橋調査報告書」刊行。
2021(令和3)年3月	「名勝錦帯橋保存活用計画」策定。
2021(令和3)年10月	「錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観」が重要文化的景観に選定される。
2023(令和5)年11月	錦帯橋世界遺産国際シンポジウムを開催。
2025(令和7)年1月	令和6年度錦帯橋世界遺産セミナー × 全国木橋サミット in 岩国を開催。

### ③ 公共交通の現状

空港や新幹線駅が立地しており、広域的な移動の利便性が高くなっています。JR や高速バスにより近隣都市が繋がっており、市内の移動は錦川清流線や路線バス、タクシーが担っています。柱島群島との間は岩国～柱島航路が運行しています。

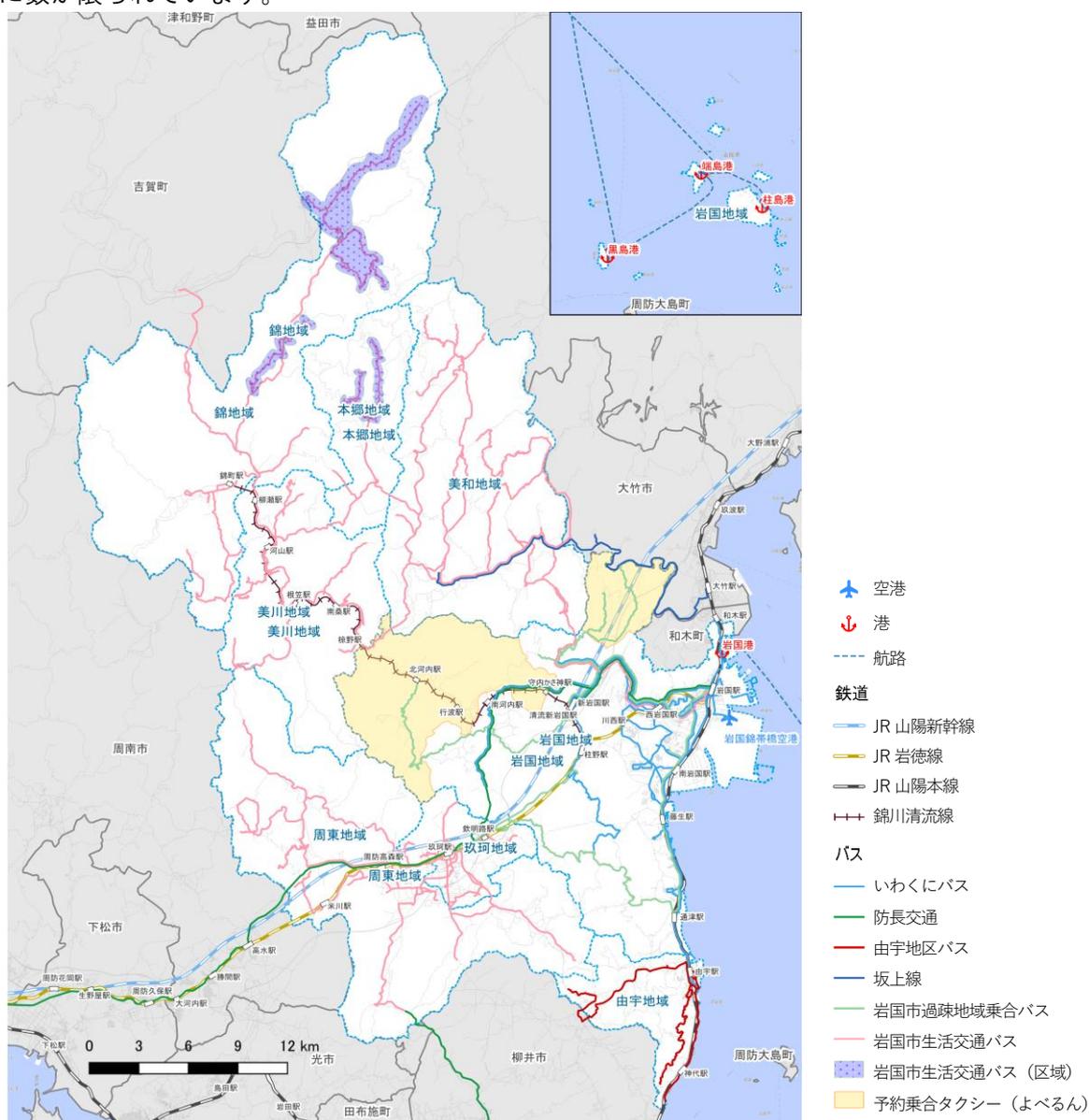
JR 山陽本線は広島方面へ 55 便／日、徳山方面へ 25 便／日、JR 岩徳線は 12 便／日、錦町～岩国間を運行する錦川清流線は 10 便／日運行しています。JR 山陽本線では、交通系 IC の利用が可能です。JR 岩徳線及び錦川清流線では利用できません。

錦川清流線は、利用促進を行っているものの、沿線人口の減少により輸送人員が、年々減少しており、運行状況に課題を有しています。

航空路は岩国錦帯橋空港～羽田空港が 5 便／日、岩国錦帯橋空港～那覇空港が 1 便／日運行しており、岩国錦帯橋空港～JR 岩国駅まではバスが運行しています。

多くの観光客が訪れる錦帯橋へは、新幹線新岩国駅及び JR 岩国駅からそれぞれバスが運行しており、二次交通としての重要な役割を担っています。なお、岩国錦帯橋空港から錦帯橋へのバスの直行便はありません。

タクシー営業所は、岩国地域を中心に多く存在していますが、一方で玖北エリアでは、営業所、台数ともに数が限られています。



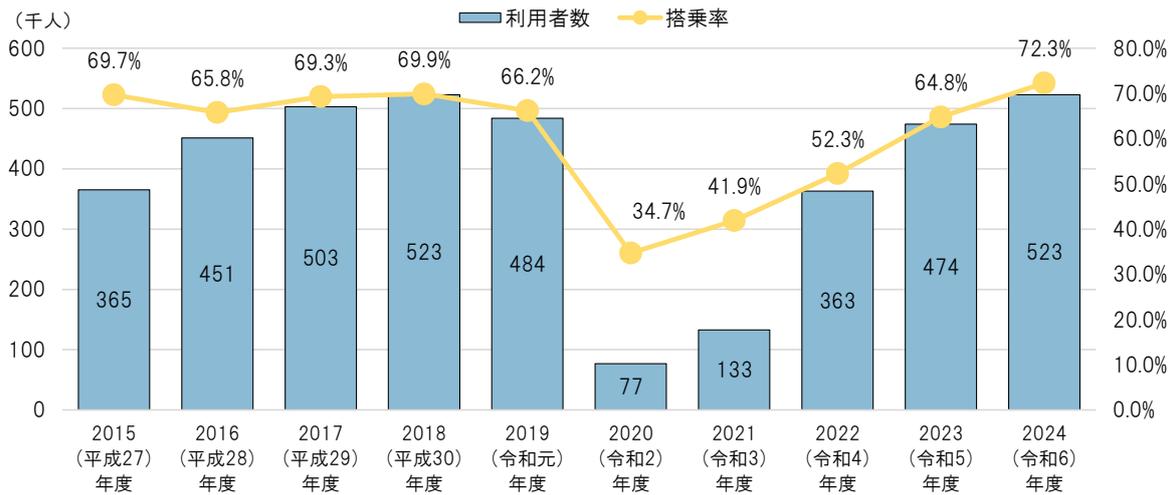
出典：岩国市地域公共交通計画

岩国錦帯橋空港の利用者数は、コロナ禍の2020（令和2）年度、2021（令和3）年度に大きく減少していますが、2022（令和4）年度からは回復傾向がみられます。

鉄道については、山陽新幹線においては、コロナ禍により減少した輸送人員が回復傾向にあります。JR山陽本線やJR岩徳線はコロナ禍に大きく減少した乗車人員からほぼ横ばいとなっており、錦川清流線においては、年々輸送人員が減少しています。

路線バスにおいては、コロナ禍に大きく減少しましたが、微増傾向になっています。

【岩国錦帯橋空港の利用者数の推移】



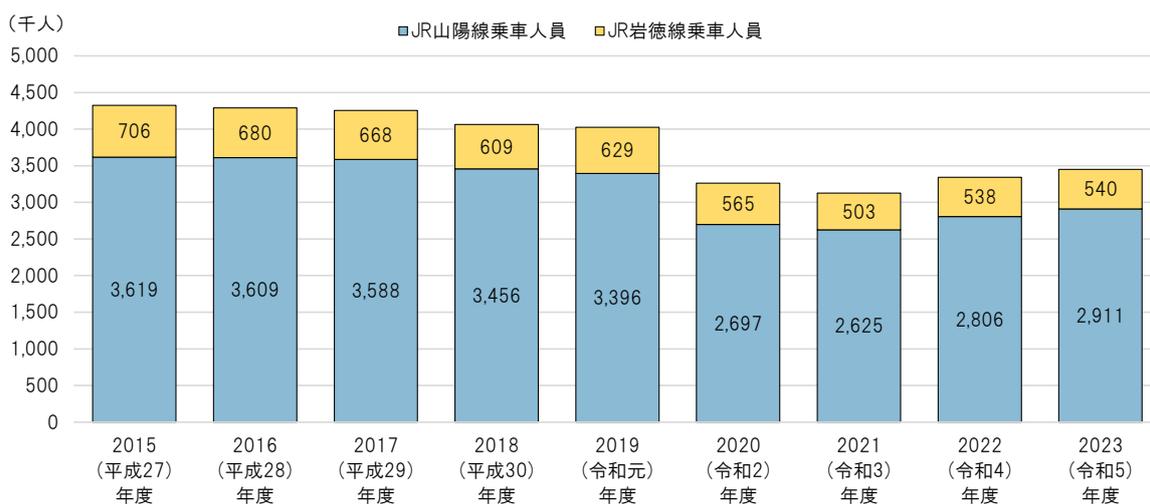
※H28年3月～の実績は、沖縄（那覇）線を含む  
出典：岩国市地域公共交通計画データより作成

【JR山陽新幹線（新岩国駅）の輸送人員の推移】



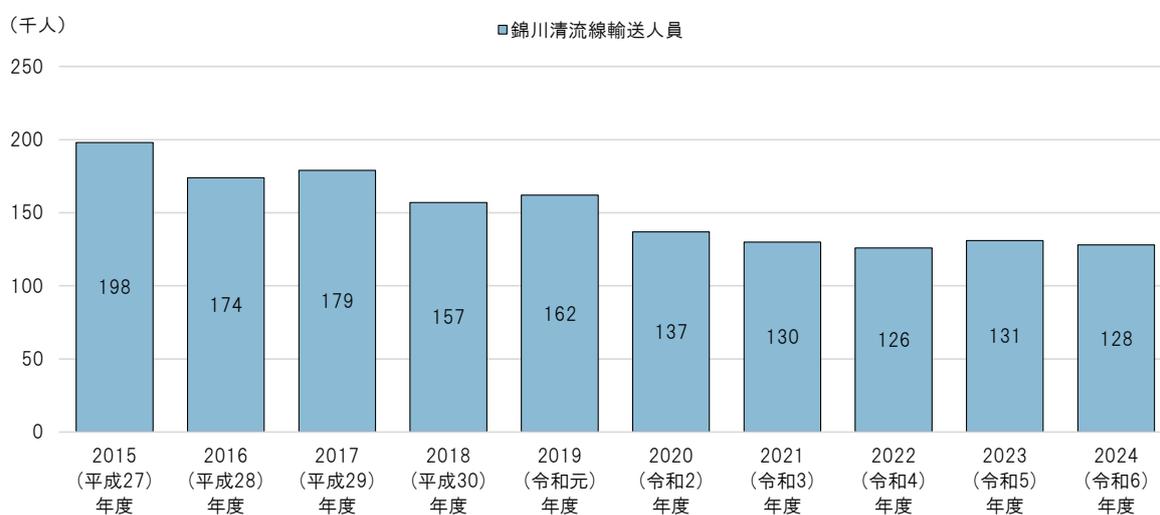
出典：岩国市地域公共交通計画データより作成

### [JR 山陽本線・JR 岩徳線の市内駅の乗車人員の推移]



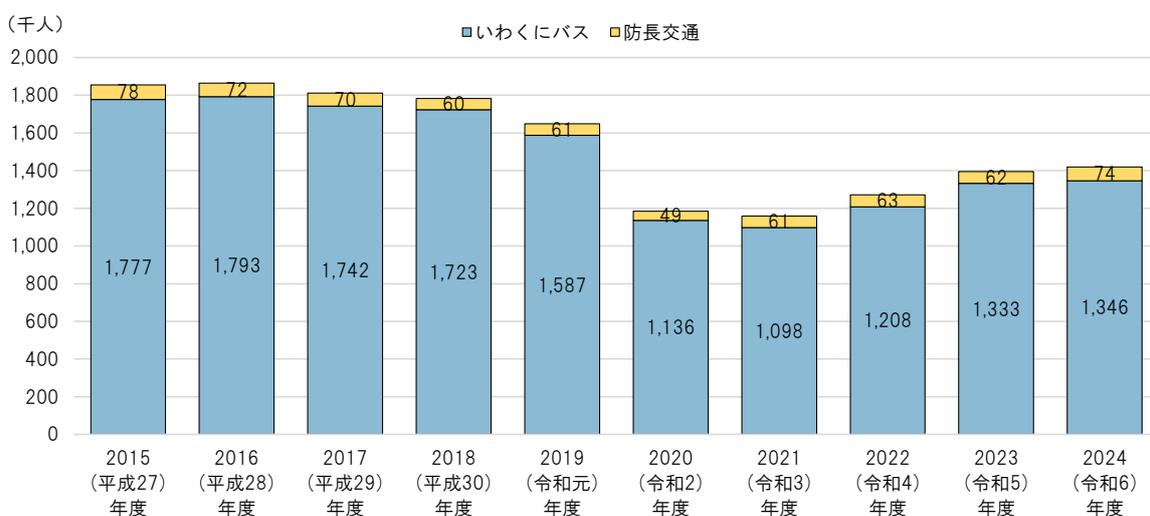
出典：岩国市地域公共交通計画データより作成

### [錦川清流線の輸送人員の推移]



出典：岩国市地域公共交通計画データより作成

### [路線バスの輸送人員の推移]



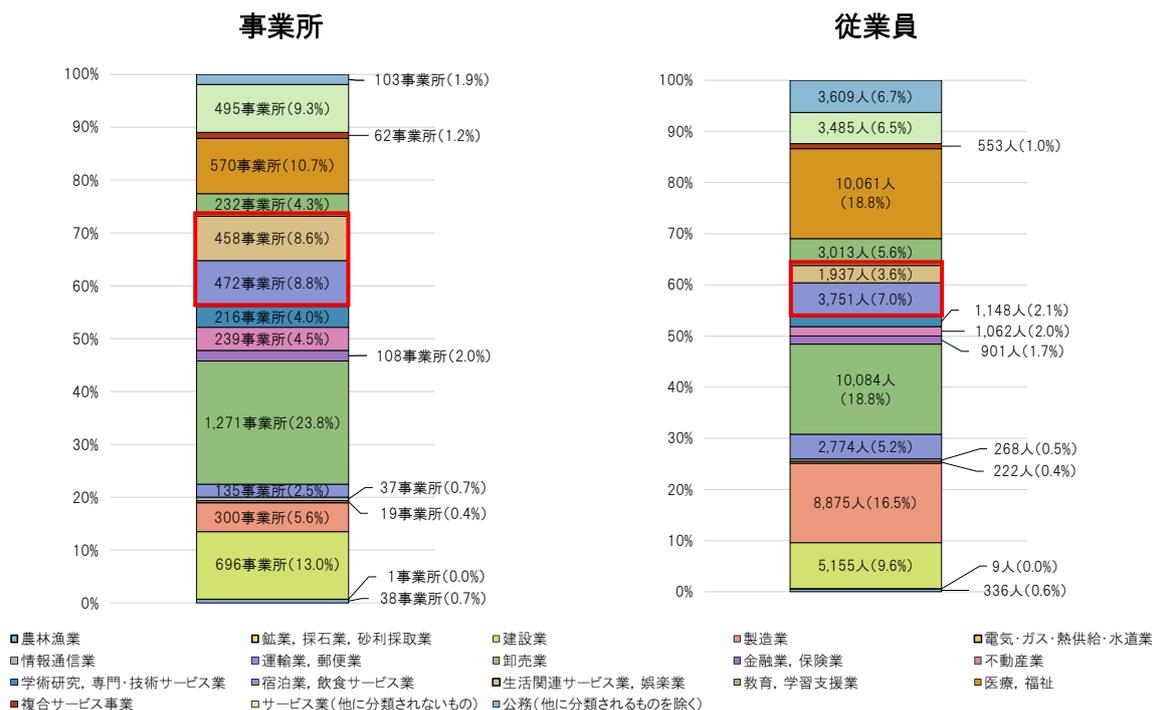
出典：岩国市地域公共交通計画データより作成

#### ④ 観光業の現状

観光に関連する「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」の割合は、産業分類別では5番目、6番目に多い割合を占めています。

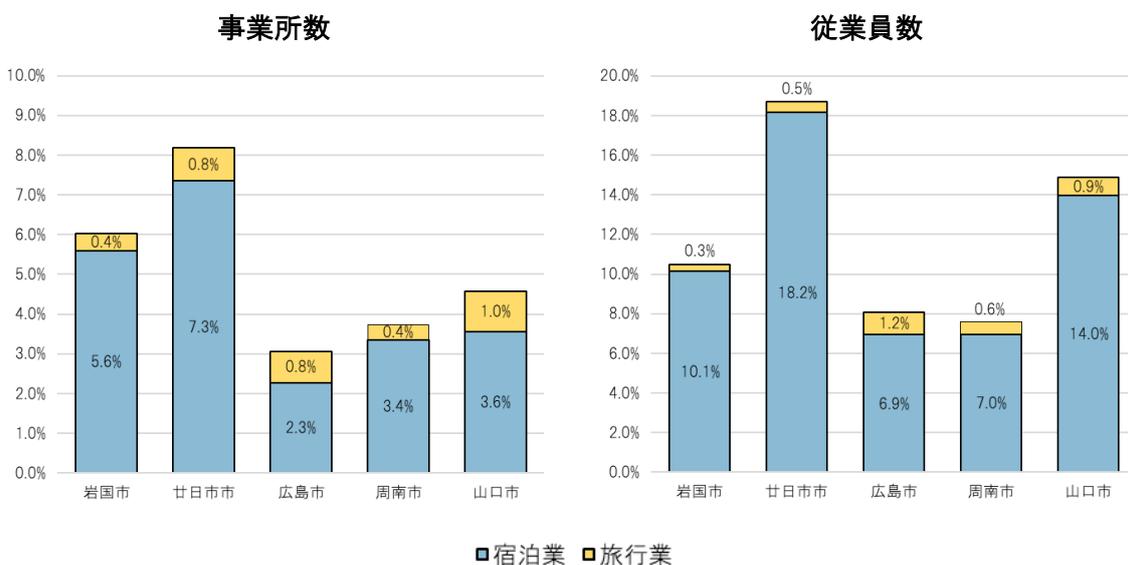
宿泊業、旅行業をみると、事業所数は、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業の6.0%、従業員数は10.4%となっています。また、近隣の市町と比較すると、事業所数は多くある一方で、従業員数はやや少なくなっています。

[産業分類別事業所・従業員の割合]



出典：経済センサス 活動調査（2021（令和3）年）

[宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業における宿泊業、旅行業の割合]



※日本標準産業分類の大分類「宿泊業・飲食サービス業」「生活関連サービス業・娯楽業」における、中分類「宿泊業」、小分類「旅行業」の割合

出典：経済センサス 活動調査（2021（令和3）年）

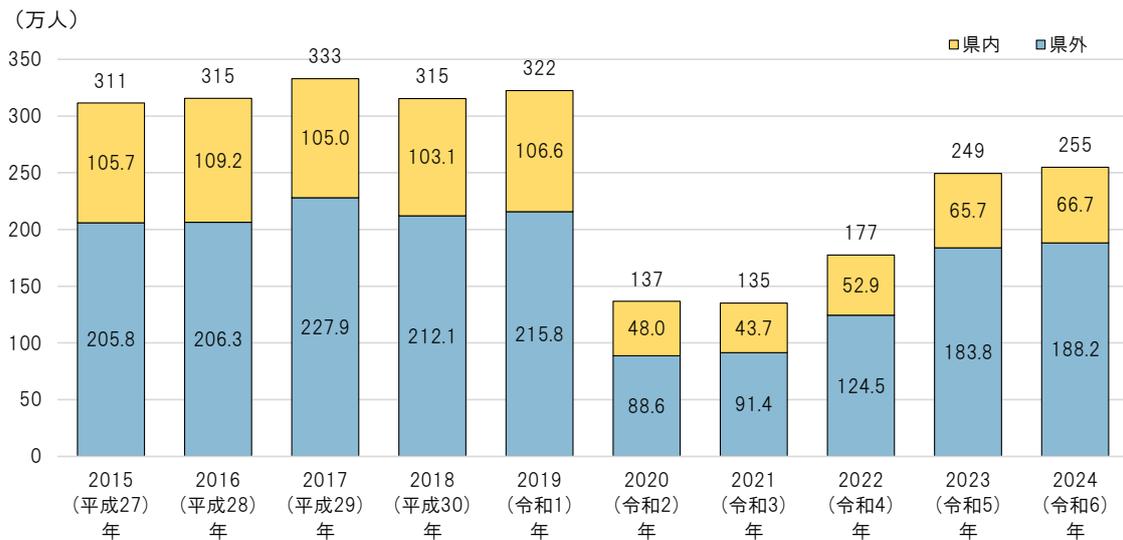
## (2) 観光客の動向

### ① 岩国市の観光客数の推移

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020（令和2）年に大きく観光客数が減少しましたが、2022（令和4）年から回復傾向にあり、2024（令和6）年には、2019（令和元）年の約79%まで回復し、約255万人の観光客が訪れています。

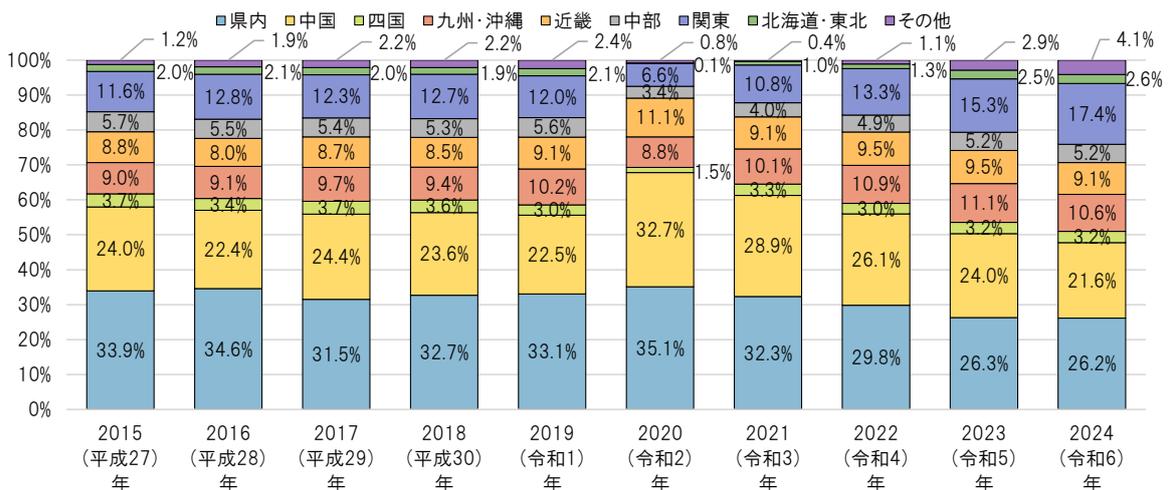
地域別の観光客数では、山口県内や中国地方のみならず、関東地方からの観光客の割合も増加しています。

[観光客数の推移]



出典：岩国市観光客動態調査

[地域別観光客割合]



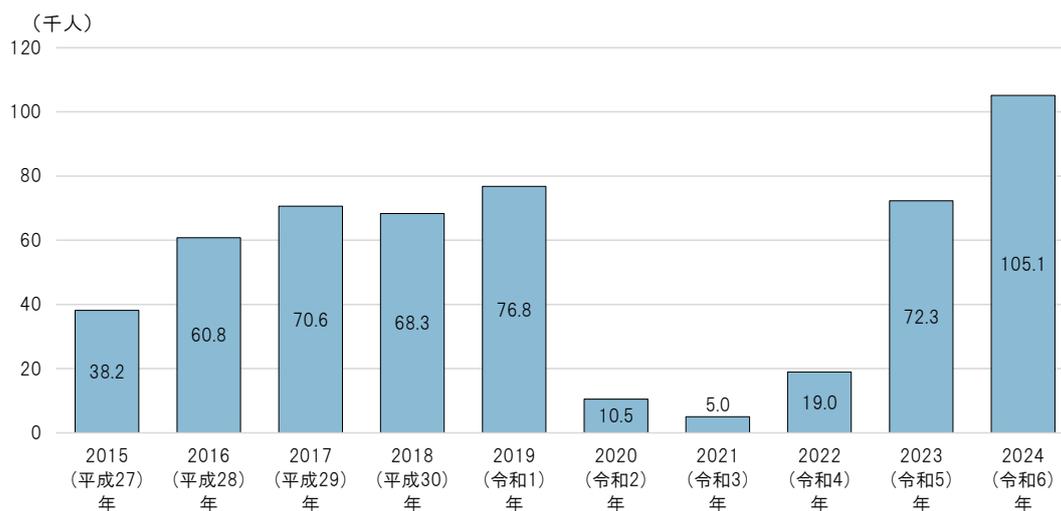
出典：岩国市観光客動態調査

## ② 岩国市の外国人観光客数の推移

岩国市を訪れた外国人観光客数は、コロナ禍で2020（令和2）年に大きく減少しましたが、2023（令和5）年に大きく増加し、2024（令和6）年では過去最高となっています。

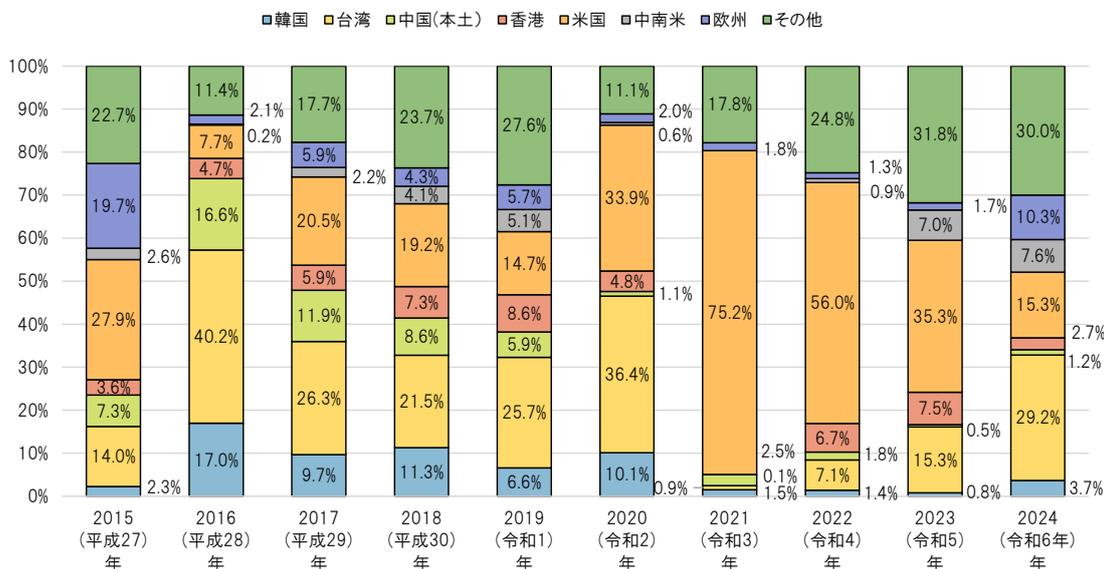
また、コロナ禍後の2021（令和3）年には、米国の割合が大きく増加し、2024（令和6）年の国別の外国人観光客の割合は、台湾、米国、欧州が多くなっています。

[外国人観光客数の推移]



出典：山口県観光客動態調査

[国別外国人観光客数]

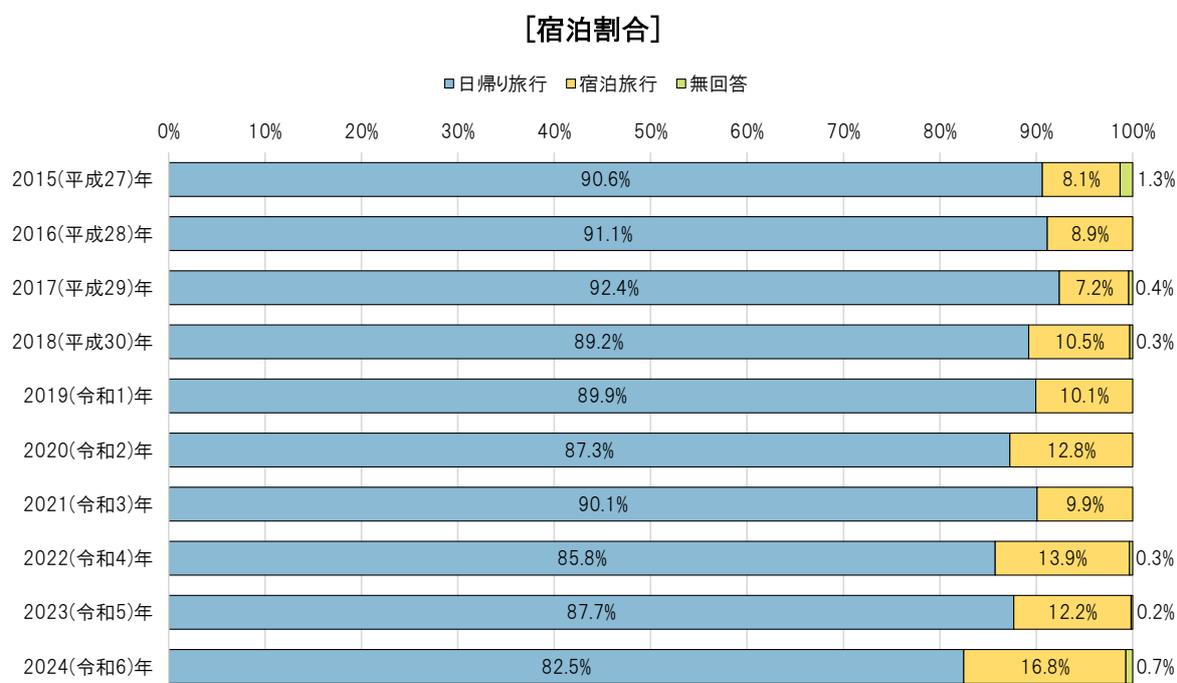


出典：岩国市観光客動態調査

### (3) 岩国市での滞在の動向

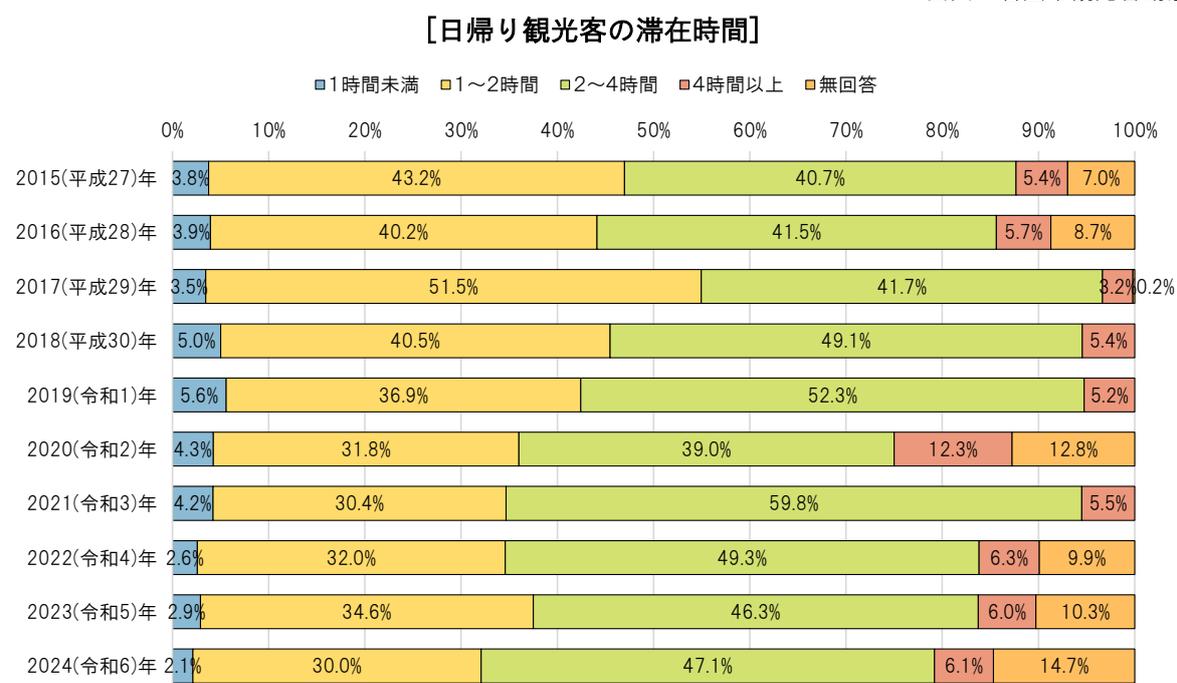
#### ① 観光客の滞在時間

岩国市への宿泊旅行は増加傾向にあるものの観光客の8割以上が、日帰り旅行となっています。また、日帰り観光客の滞在時間は、1～4時間が約8割を占めており、錦帯橋周辺のみでの観光となっていると推察できます。



※「日帰り旅行」は、旅行行程において岩国市内に宿泊しない旅行をいう。

出典：岩国市観光客動態調査



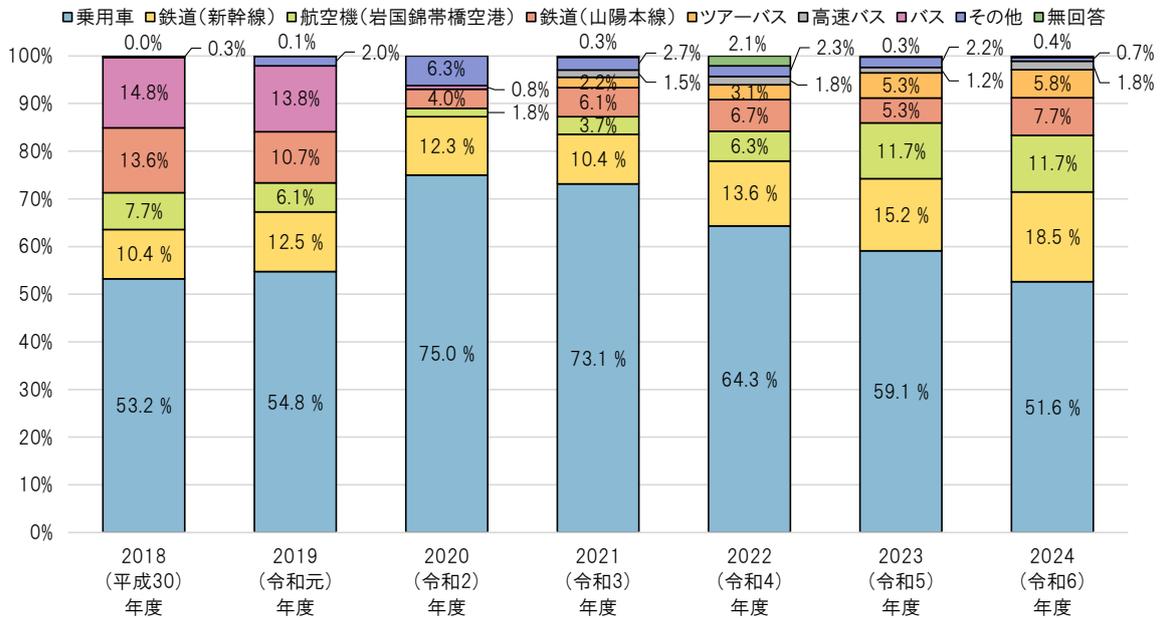
※「日帰り観光客」は、旅行行程において岩国市内に宿泊しない旅行をいう。

出典：岩国市観光客動態調査

## ② 利用した交通機関

コロナ禍は70%以上が乗用車で来訪しており、2024（令和6）年では約52%まで減少し、コロナ禍前と同水準になっています。また、新幹線や航空機の利用は、コロナ禍以前より高まっており、2024（令和6）年では18.5%となっています。

[岩国市を訪れる際に利用した交通機関]

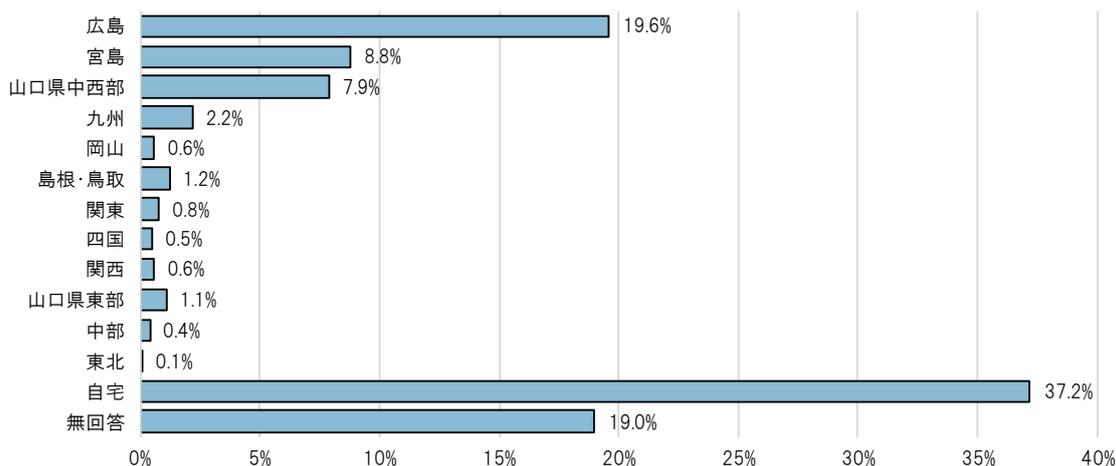


出典：岩国市観光客動態調査

### ③ 岩国市を訪れた観光客の前後の立ち寄り先

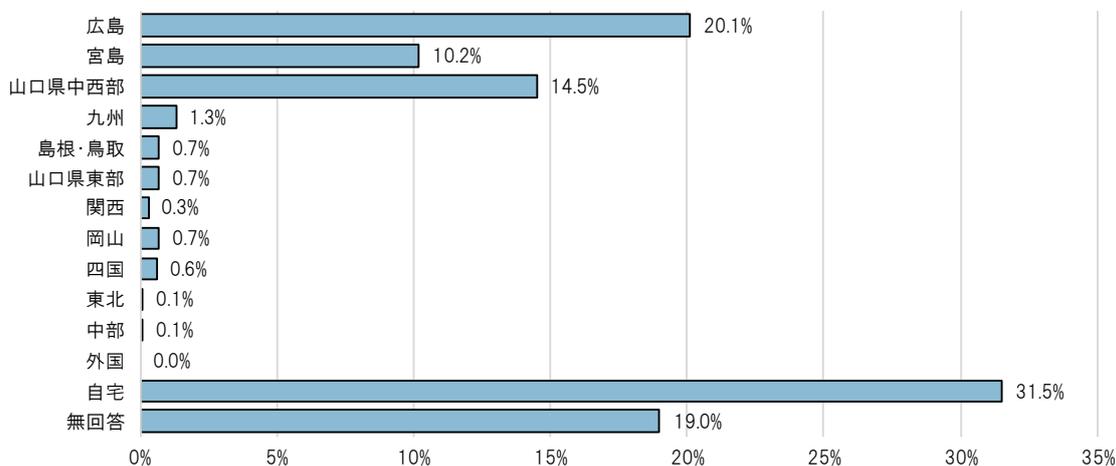
岩国市を訪れた前後の立ち寄り先は、広島県が多くなっています。また、岩国市を訪れる前後が自宅であるとの回答も多く、岩国市のみを訪れている観光客も多い現状があります。岩国市を訪れた観光客の多くは、山口県内や広島県から岩国市を訪れ、広島県へ移動しており、岩国市と広島県が一体的な観光エリアになっています。

[岩国市を訪れる前の立ち寄り先（2024（令和6）年）]



出典：岩国市観光客動態調査

[岩国市を訪れた後に立ち寄る場所（2024（令和6）年）]

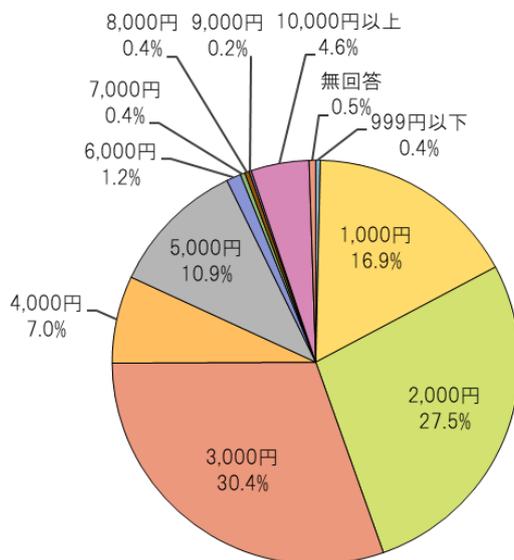


出典：岩国市観光客動態調査

#### ④ 岩国市を訪れた観光客の消費金額

岩国市を訪れた観光客の消費金額は、約 75%が 3,000 円以下となっており、10,000 円以上は約 5%となっています。また、広島県の近隣市町と比較しても、消費額が低くなっています。宿泊旅行者が少なく、日帰り旅行者が多いため、市内での消費金額が少なくなっていると推測できます。

【岩国市での消費金額（2024（令和6）年）】



※調査では千円単位での回答を求めています。  
出典：岩国市観光客動態調査

【岩国市近隣市町の消費金額（2024（令和6）年）】

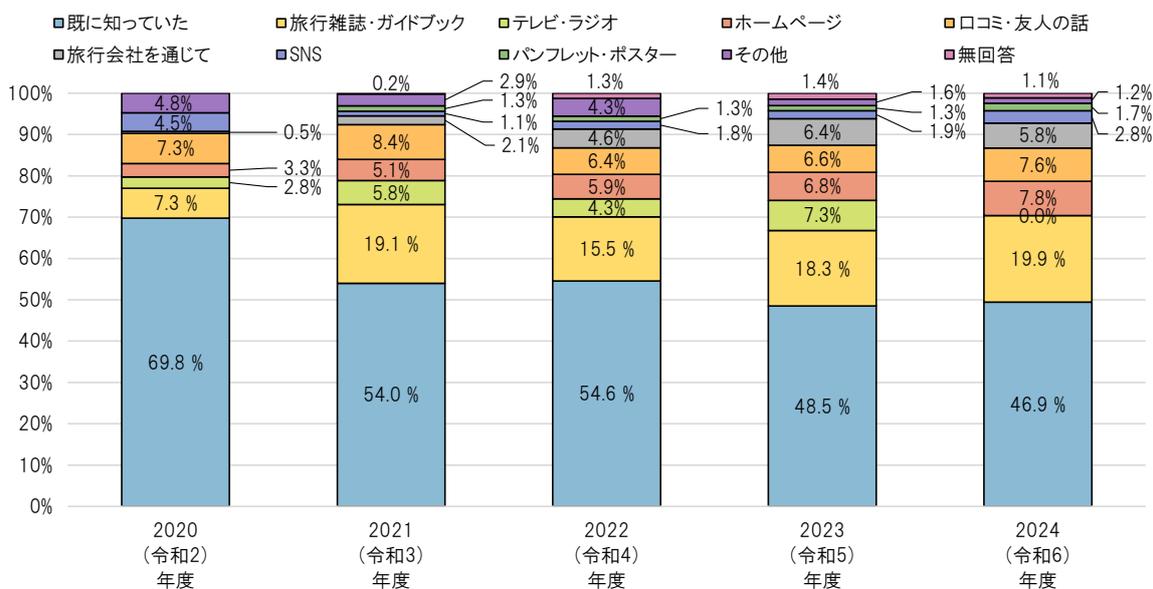
都市名	観光消費額（円/人）
広島県	9,141
広島市	26,008
大竹市	976
廿日市市	4,412
【参考】岩国市	3,459

出典：広島県観光客数の動向

## ⑤ 観光の情報収集方法

旅行先を決める際に参考にする観光情報として、約半数が「既知っていた」と回答している一方で、情報収集で「ホームページ」、「SNS」などの情報通信機器やインターネットの利用が多くなってきています。

[旅行先を決めるのに最も参考にしたもの]

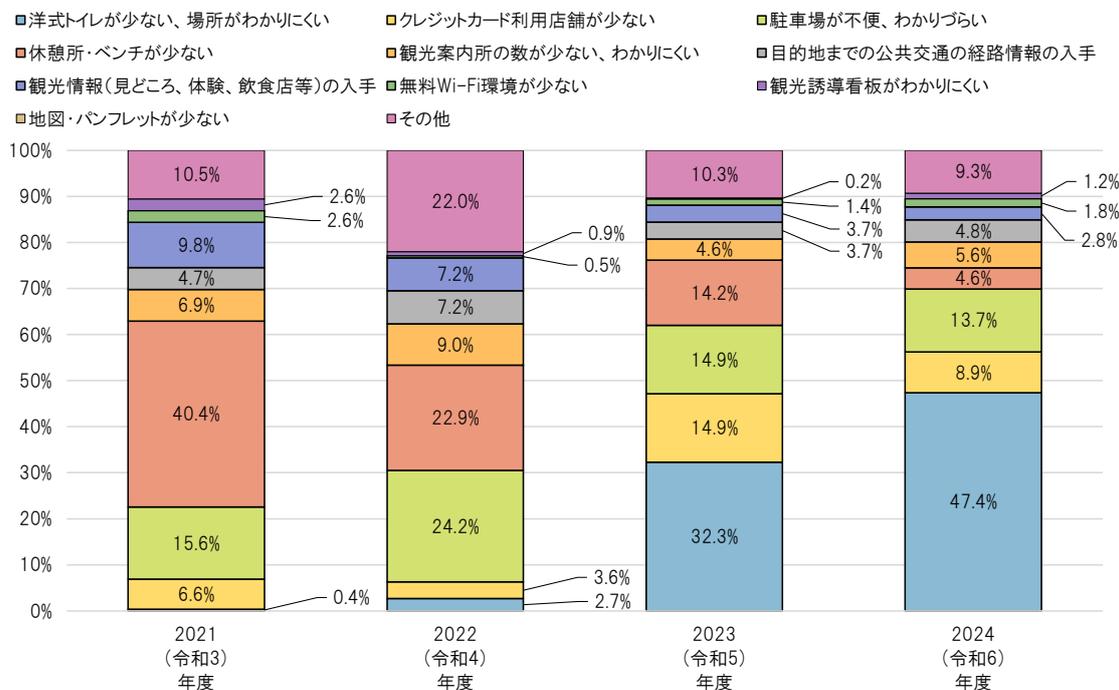


出典：岩国市観光客動態調査

## ⑥ 岩国市の観光に期待すること

岩国市の観光について、魅力向上のために必要な施策として「洋式トイレが少ない、場所がわかりにくい」や「クレジットカード利用店舗が少ない」といった、受入環境の整備に関する対応が求められています。

[魅力向上のために必要な施策]



出典：岩国市観光客動態調査

## (4) 観光に対する興味度

岩国市の観光に関する意向やニーズを把握するために、市民アンケート調査、日本人観光客アンケート調査（錦帯橋）、外国人観光客アンケート調査（錦帯橋、広島駅・宮島）、事業者ヒアリングを実施しました。アンケート調査の結果より、市民、観光客、事業者の観光に関する興味度を示します。

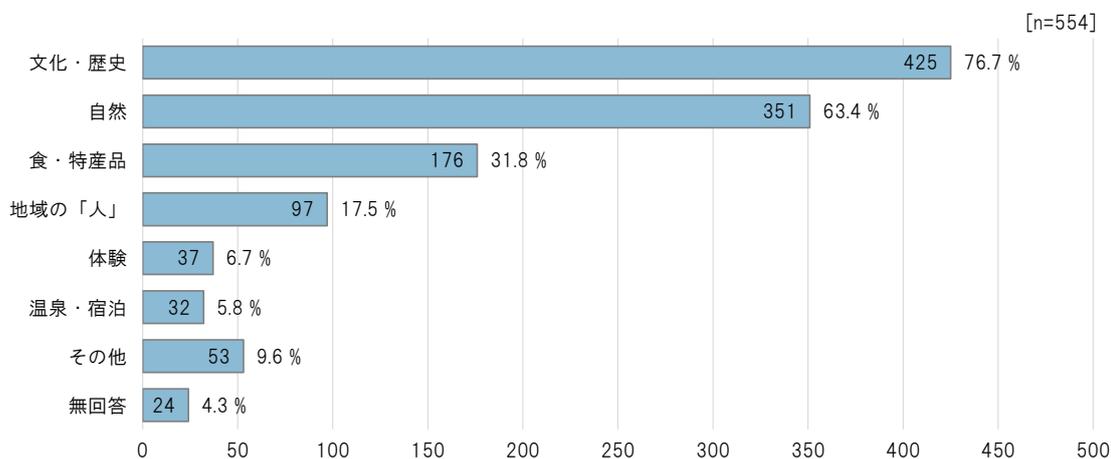
### ① 市民の観光に対する興味度

18歳以上の市民を対象に、岩国市の観光に関するアンケート調査を2024（令和6）年8月に実施しました。

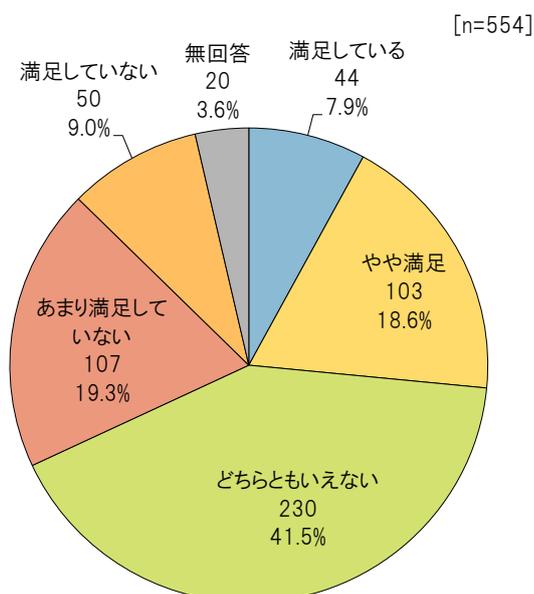
岩国市の観光の強みとしては、「文化・歴史」や「自然」が多く挙げられています。

また、観光振興に対する市民の満足度は、「あまり満足していない」と「満足していない」の合計が、「満足している」と「やや満足」の合計より多くなっており、市民の観光に関する満足度は低くなっています。

【岩国市の観光の強み】



【観光振興の満足度】



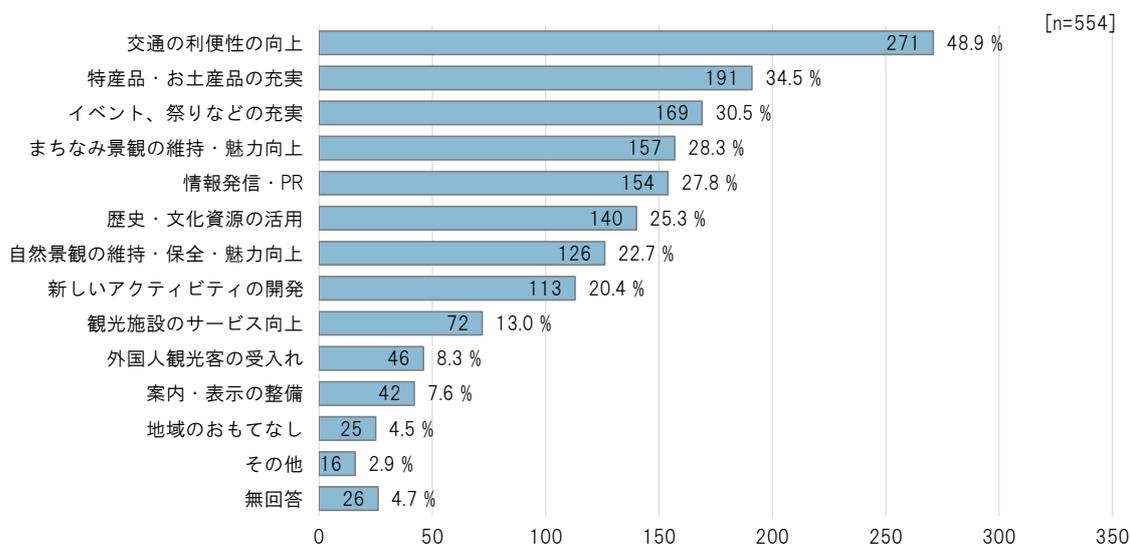
観光振興のために必要な取組としては、「交通利便性の向上」が最も多く挙げられ、次いで、「特産品・お土産の充実」となっています。

今後も観光振興のために継続すべき取組としては、「錦帯橋周辺の整備」が最も多くなっています。

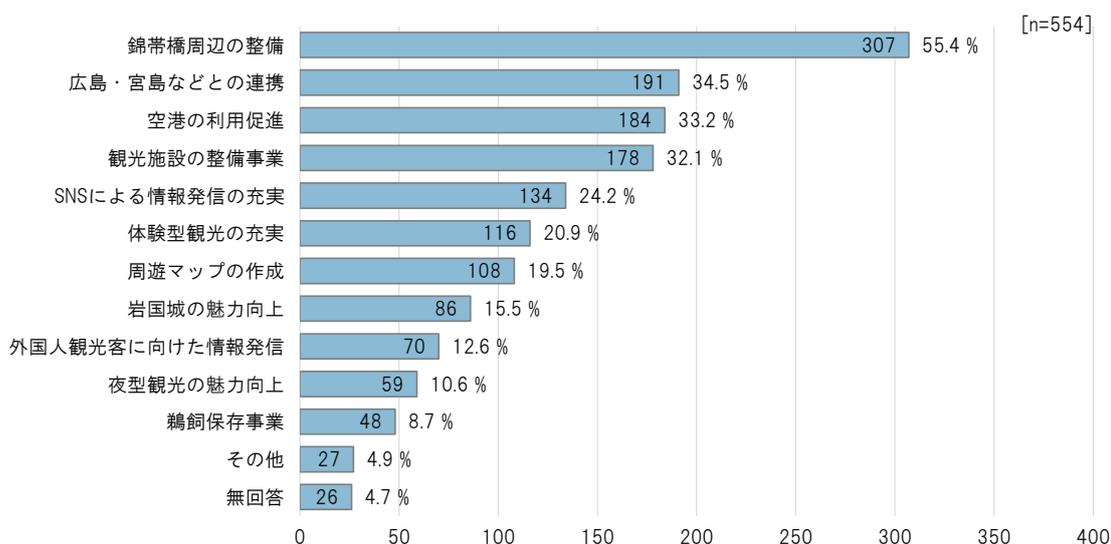
観光客を受け入れるために必要な取組としては、「観光地としてのインフラ整備（公衆トイレや観光案内サインの整備等）」が多く挙げられています。

また、観光振興に、「行政・民間企業・住民による協力体制」で取組むべきという声が多くなっています。

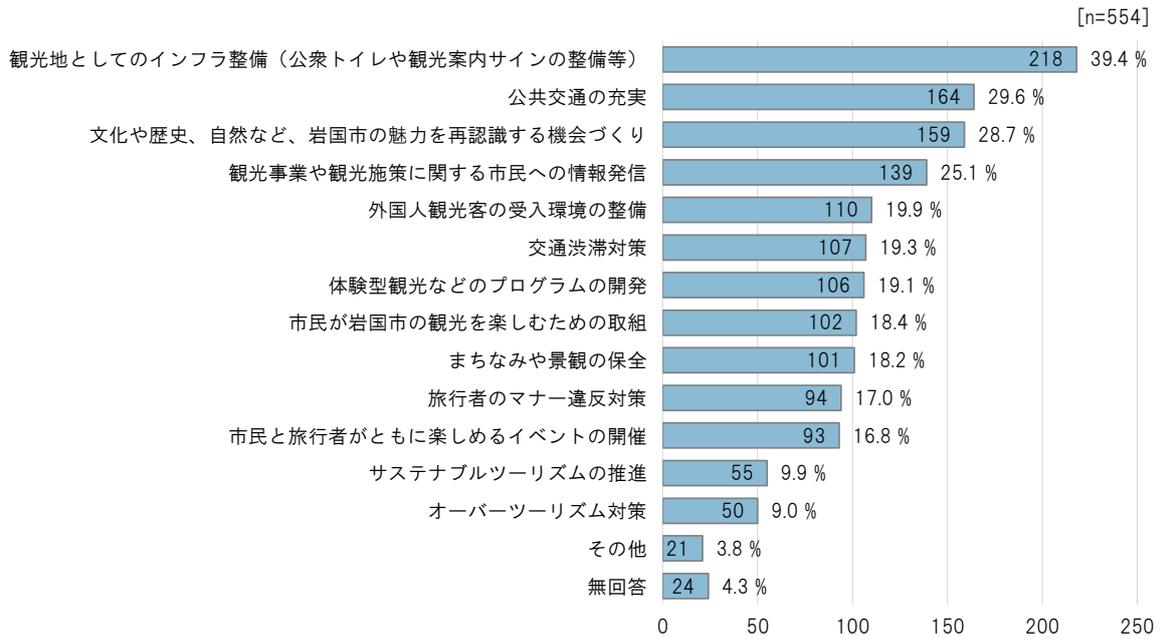
【観光振興のために必要な取組】



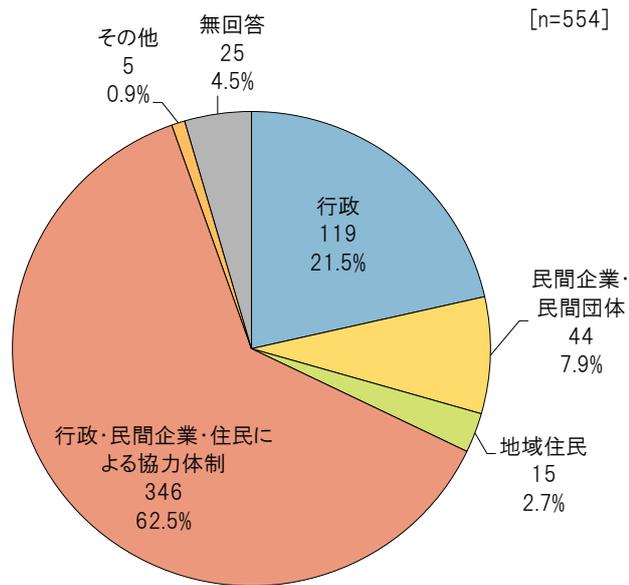
【観光振興のために今後も継続すべき取組】



### [観光客を受け入れるために必要な取組]



### [観光振興を推進する主体]

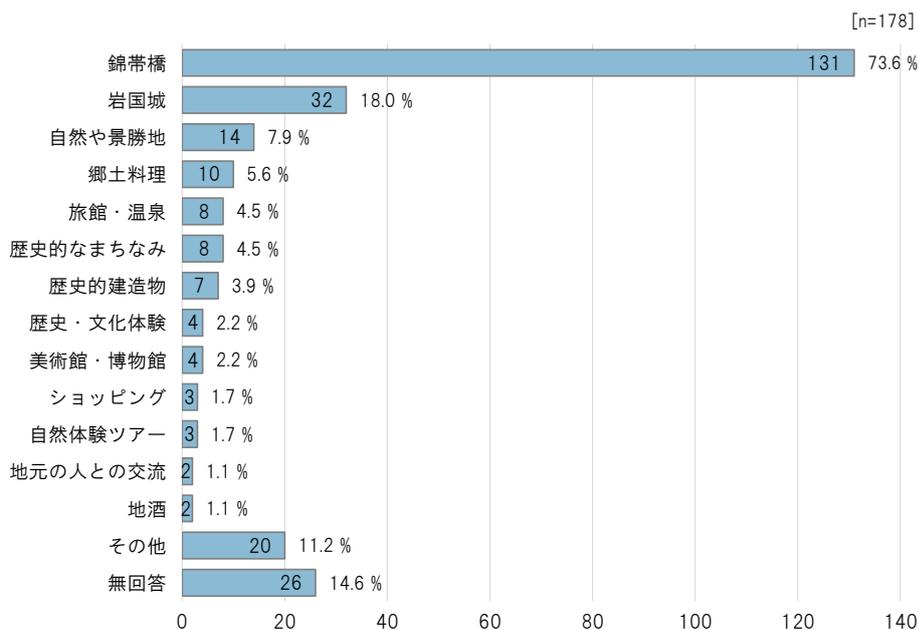


## ② 岩国市を訪れた日本人観光客の興味度

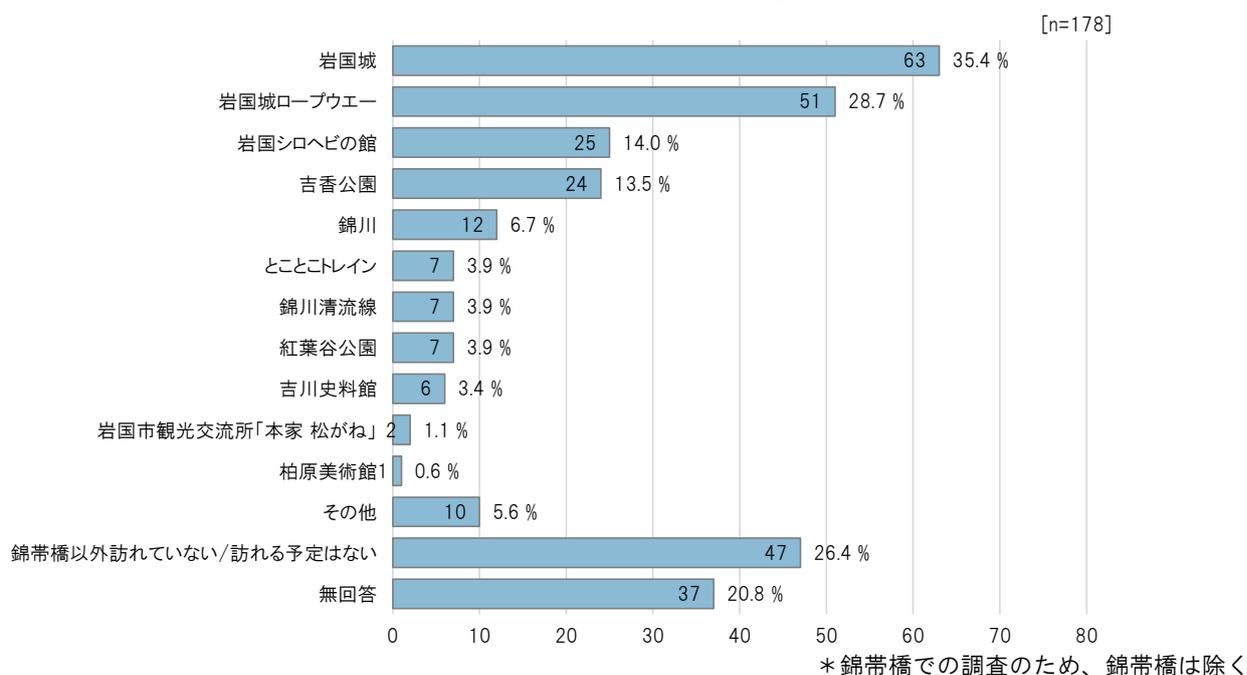
錦帯橋を訪れた日本人観光客を対象に、観光の目的やニーズを把握するための街頭アンケート調査を2024（令和6）年8月に実施しました。

岩国市を訪れる目的、訪れた場所として、「錦帯橋」や「岩国城」など、錦帯橋周辺が多くなっています。また、「錦帯橋以外訪れていない、訪れる予定はない」の回答も多く、錦帯橋のみを目的とした日帰り観光が多くなっています。

[岩国市を訪れた目的]



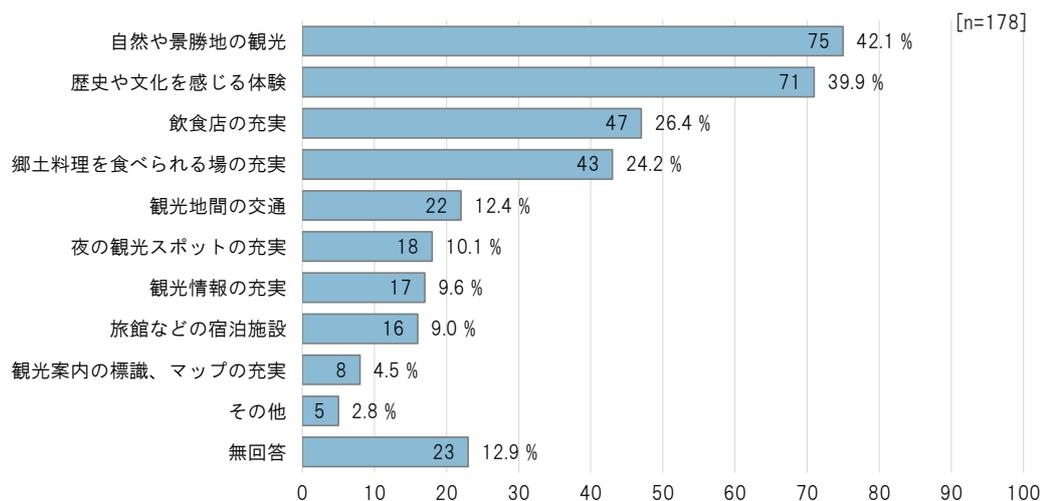
[岩国市で訪れた・訪れる予定の場所]



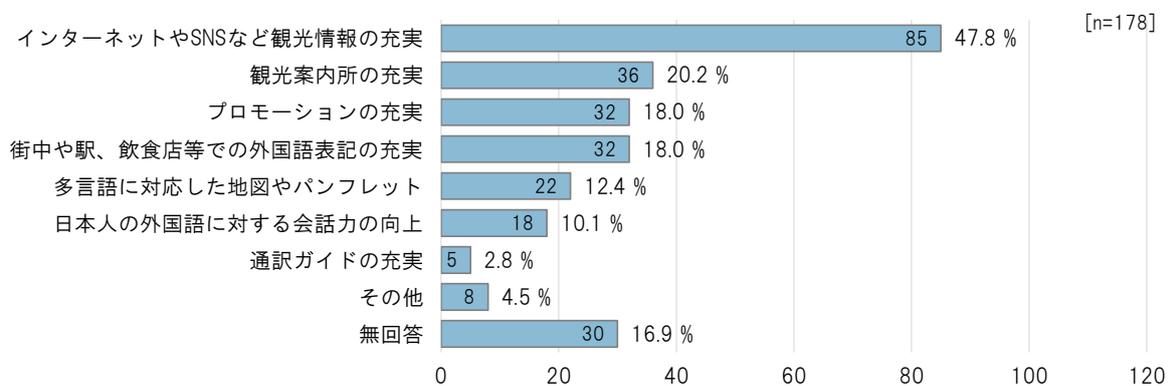
今後、岩国市に期待することとして、「自然や景勝地の観光」や「歴史や文化を感じる体験」といった、観光資源を活かした観光や体験型観光、「飲食店の充実」や「郷土料理が食べられる場の充実」といった食への期待が高くなっています。

また、旅行するにあたって重要なこととして、「インターネットや SNS など観光情報の充実」が最も多く挙げられ、次いで、「観光案内所の充実」、「プロモーションの充実」となっており、観光に関する情報提供の充実が求められています。

### [今後、岩国市に期待すること]



### [旅行をするにあたって、重要だと思うこと]



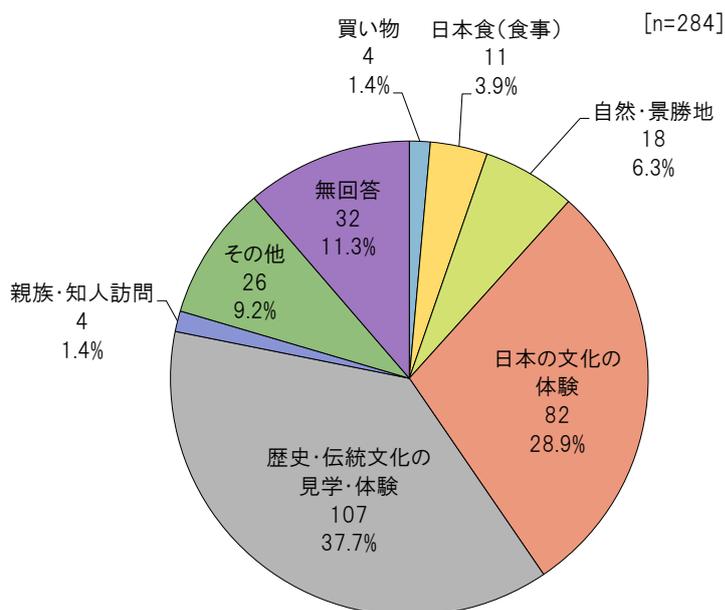
### ③ 広島駅・宮島を訪れた外国人観光客の興味度

広島駅・宮島を訪れた外国人観光客を対象に、日本での観光の目的や岩国市の認知度を把握するための街頭アンケート調査を2024（令和6）年8月に実施しました。

外国人観光客が日本を訪れる目的として、「歴史・伝統文化の見学・体験」が最も多く、次いで、「日本文化の体験」となっており、日本へ歴史・文化の見学・体験を求めて来訪しています。

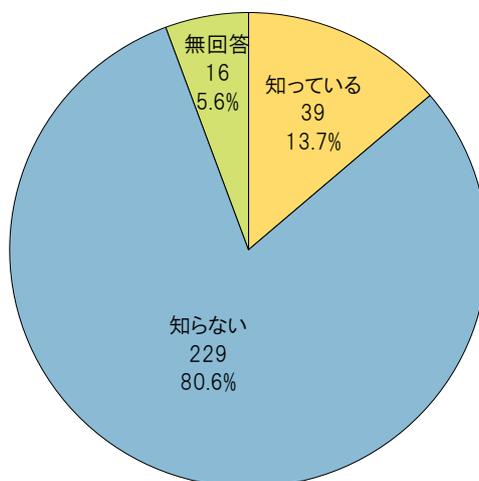
また、広島駅・宮島を訪れた外国人観光客の岩国市の認知度は、約13%となっており、近隣の広島県を訪れている場合でも、岩国市の認知度は低くなっています。

[日本を訪れた目的]



[外国人観光客の岩国市の認知度]

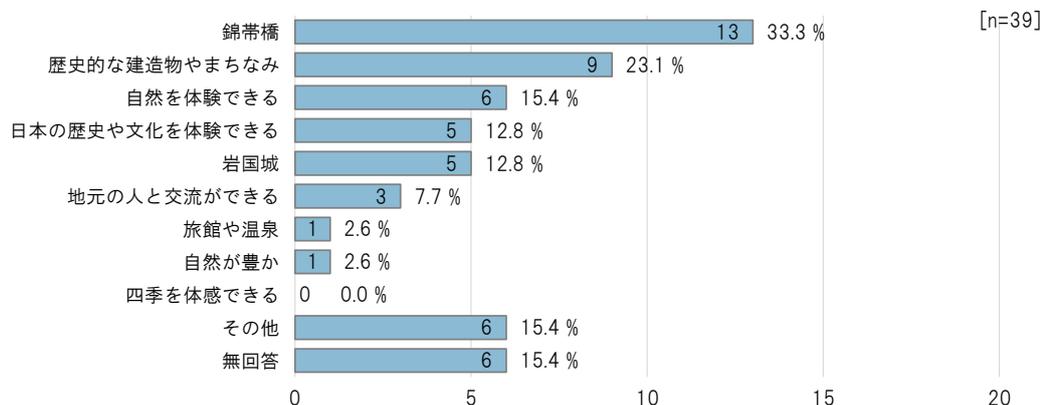
[n=284]



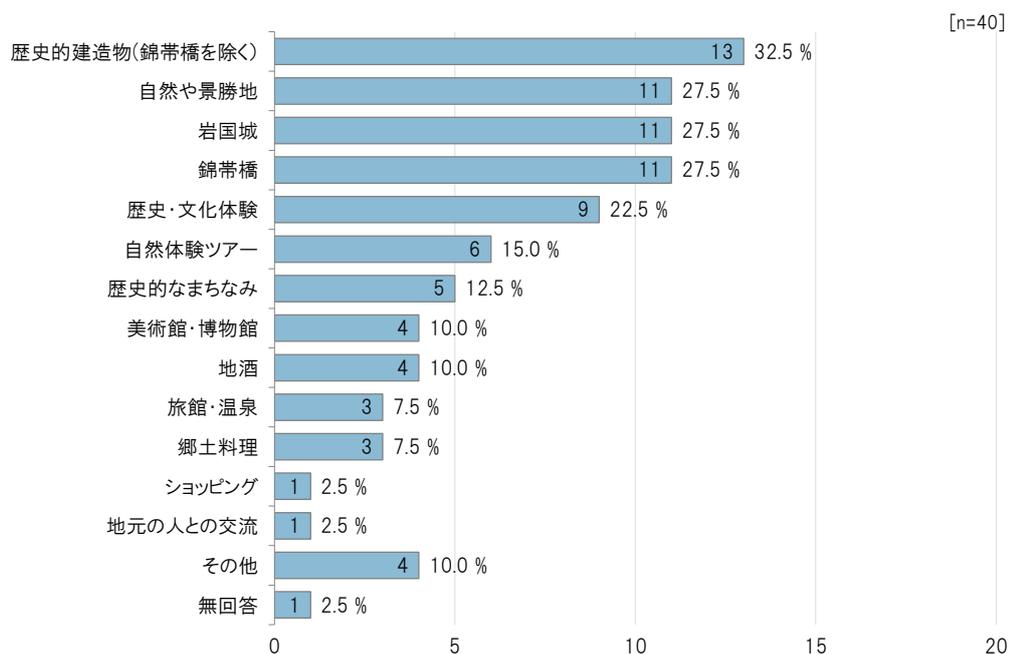
訪日外国人の岩国市についてのイメージとしては、「錦帯橋」が最も多く、次いで、「歴史的な建造物やまちなみ」となっています。

また、岩国市で訪れた・訪れる予定の場所としては、「歴史的建造物（錦帯橋を除く）」が最も多く、「自然や景勝地」、「岩国城」、「錦帯橋」となっています。

[岩国市のイメージ]



[岩国市で訪れた・訪れる予定の場所]



#### ④ 観光事業者の興味度

観光協会や観光事業者、旅行会社に岩国市の観光の強みや弱み、観光の課題などを把握するために、ヒアリングやアンケート調査を2024（令和6）年度に実施しました。

観光の強みとして、観光資源の豊富さや空港があることによる利便性が挙げられた一方で、資源の活用や駐車場、トイレなどの環境整備、人材不足、デジタル化などの課題が見られます。観光振興に向けて、環境整備や情報発信、組織体制づくりが求められています。

#### ■事業者・団体ヒアリング

項目	主な意見
観光の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 錦帯橋、岩国城という有名な観光施設や観光資源、食が豊富である。</li> <li>◆ 史跡、名所、景勝が多く、自然にも恵まれている。</li> <li>◆ 体験ができる施設がある。</li> </ul>
観光の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 二次交通が不便である。</li> <li>◆ 公衆トイレの不足、老朽化している。</li> <li>◆ 観光事業者が不足している。</li> <li>◆ 滞在時間が短く、周辺観光地の通過点になっており宿泊客が少ない。</li> <li>◆ キャッシュレスの導入が少ない。</li> </ul>
観光の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 海・山・川・島などの資源が活用しきれていない。資源をつなぐ手段がない。</li> <li>◆ 「食」のコンテンツを強みにする。</li> <li>◆ 河川敷の駐車場の段階的な移設が必要である。</li> <li>◆ 公衆トイレの老朽化が進んでおり、ゴミ箱や休憩所が少ない。</li> <li>◆ 二次交通に課題がある。交通の便、アクセスがよくない。</li> <li>◆ キャッシュレス化が進んでいない。</li> <li>◆ 観光振興の統一性に欠ける。</li> <li>◆ 観光事業者が少ない。人材不足や後継者問題がある。</li> <li>◆ 資源の個々については話せる人はいるが、つないで話せる人がいない。</li> <li>◆ 宿泊施設が少ない。</li> <li>◆ 情報発信、PR方法の検討、情報の一元化が必要である。</li> <li>◆ 民間が実施する施策に対する行政のバックアップが必要である。</li> </ul>
重点的に取り組むべきこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 駐車場、ゴミ箱、トイレなどの環境整備や体制づくりが必要である。</li> <li>◆ 市内で周遊できるようにすべきである。</li> <li>◆ 農業体験は関心が高い人には来てもらえるコンテンツになると思う。</li> <li>◆ キャッシュレス化の推進が必要である。</li> <li>◆ 観光に関わる人材の育成や外国語のできるガイドの配置が必要である。</li> <li>◆ 錦帯橋周辺の駐車場を河原から移動し、観光客の流れをつくる。</li> <li>◆ 観光協会を今後、1つの組織にすべきだと思う。</li> <li>◆ 取組や情報発信を、それぞれがうまく連携して、広く発信すべきである。</li> <li>◆ 県内・県外への観光のPR、情報発信、HPの作成が必要である。</li> </ul>

### ■観光事業者アンケート調査

項目	主な意見
観光の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 錦帯橋がある。</li> <li>◆ 錦帯橋周辺に観光名所等が集中している。</li> <li>◆ 空港が市街地に近い。</li> <li>◆ 自然が豊かである。里山の風景を見ることができる。</li> </ul>
観光の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ バリエーションが少ない。</li> <li>◆ 通過型観光地になっている。</li> <li>◆ 周辺地域との公共交通網が不十分である。</li> <li>◆ 広報が不足している。</li> <li>◆ 人材が少なく、一人ひとりの負担が大きい。</li> </ul>
観光の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 駐車場の完備が必要である。</li> <li>◆ 観光地が錦帯橋周辺に集中しており、強みでもあるが、滞在時間も短くなっている。</li> <li>◆ ガイド会員が不足している。</li> <li>◆ 岩国市内のみならず、里山の広報が必要である。</li> </ul>
観光振興に向けて必要な取組・期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今ある資源を活かす。</li> <li>◆ 岩国市の広報をする。</li> <li>◆ ガイド会員の確保とガイド養成講座を行う。</li> <li>◆ 観光協会の一本化が必要である。</li> <li>◆ 錦帯橋周辺の観光中心地と玖北・玖西・由宇など周辺地域と連携をする。</li> </ul>

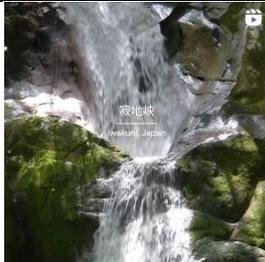
### ■旅行会社アンケート調査

項目	主な意見
観光の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 錦帯橋を見学して、あわせてその他の観光地を見学するという、相乗効果が期待できる。</li> <li>◆ 岩国錦帯橋空港が市内近くにある。関東からは便利である。</li> <li>◆ 豊かな自然(錦川)や歴史、文化施設がある。</li> </ul>
観光の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 錦帯橋エリアを周遊する面的な取組。</li> <li>◆ 観光地、施設のデジタル化が遅れている。</li> <li>◆ 欧米向けプロモーション不足している。</li> <li>◆ アクティビティ事業者が足りない。</li> <li>◆ 受入体制の整備が必要である。</li> </ul>
岩国市がすべき取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 宿泊施設を増加させる。</li> <li>◆ 効果的、効率的なプロモーションを実施する。</li> </ul>

## ⑤ SNS(Instagram)インサイト分析

岩国市では、観光等に関する情報をInstagramで発信しています。岩国市観光振興課のアカウントは、2024（令和6）年7月時点で、約5,300人にフォローされています。また、アカウントごとの閲覧数の多いコンテンツは、「錦帯橋周辺の桜」や川や海での「自然体験」などとなっています。

### [トップコンテンツ]

アカウント	1位	2位	3位
<b>【公式】岩国市観光振興課</b>  フォロワー数:5,324人	 錦帯橋周辺 桜	 錦帯橋周辺 桜	 錦帯橋まつり
<b>ちかくに いわくに(岩国市公式)</b>  フォロワー数:342人	 岩国市公式ファンクラブ アンバサダー就任式 川本アレクサンダー	 岩国市公式ファンクラブ 入会申込み受付開始	 トライアル・ダンス・レッスン 写真撮影会 6/23 (sun) 13:30～14:30 ダンス・レッスン (無料) 14:30～15:00 写真撮影会 (有料)
<b>ちかくに いいもの いわくに made★</b>  フォロワー数:905人	 通津漁業協同組合 アサリの潮干狩り	 錦川漁業協同組合 鮎の放流	 ちよんまげ × 錦帯橋のうぐい オリジナルステッカー プレゼントキャンペーン 2024.6.1～9.1
<b>ええね岩国【official】 岩国市シティプロモーション課</b>  フォロワー数:836人	 美和町 神楽公演	 錦町宇佐 寂地峡 五竜の瀧	 吉香公園 菖蒲園の花

※フォロワー数：2024（令和6）年7月末時点

※トップコンテンツ集計期間：【公式】岩国市観光振興課[2024（令和6）年4月1日～6月29日]

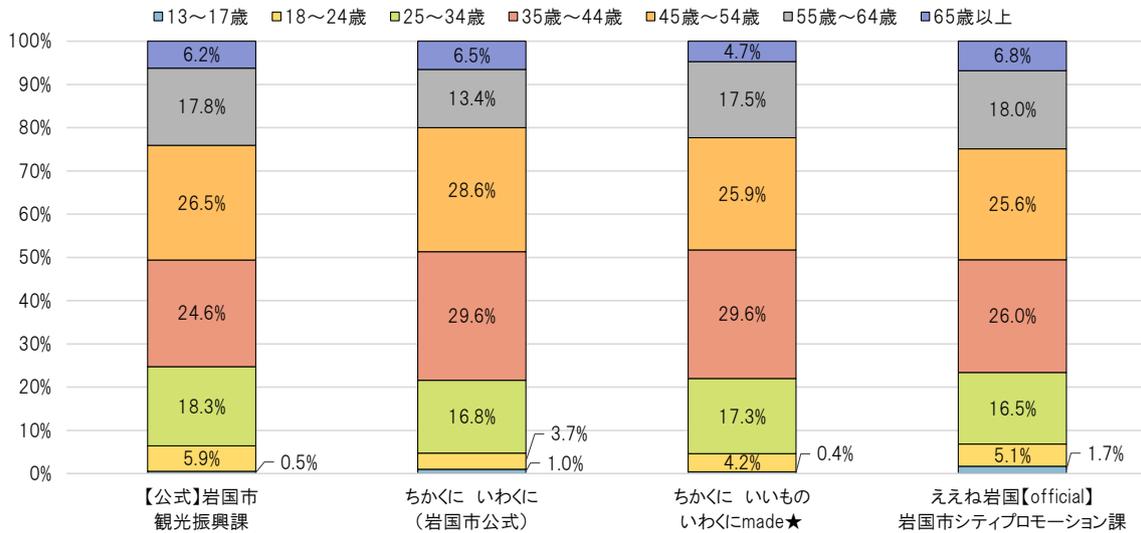
ちかくに いわくに(岩国市公式) [2024（令和6）年4月3日～7月1日]、

ちかくに いいもの いわくに made★[2024（令和6）年4月3日～7月1日]、

ええね岩国【official】岩国市シティプロモーション課[2024（令和6）年4月2日～6月30日]

各 SNS アカウントのフォロワーの年齢は、いずれのアカウントも 35～54 歳が多くなっています。  
 各 SNS アカウントのフォロワーの居住地は、いずれのアカウントにおいても岩国市、広島市が多くなっています。また、岩国市近隣の都市のみならず、国内では大阪市や京都市のフォロワー、国外では上海市のフォロワーも上位に位置しています。

### [フォロワーの年齢]



※集計期間：【公式】岩国市観光振興課[2024（令和6）年4月1日～6月29日]  
 ちかくに いわくに（岩国市公式）[2024（令和6）年4月3日～7月1日]、  
 ちかくに いいもの いわくにmade★[2024（令和6）年4月3日～7月1日]、  
 ええね岩国【official】岩国市シティプロモーション課[2024（令和6）年4月2日～6月30日]

### [フォロワーの居住地]

	1位	2位	3位	4位	5位	その他の地域
【公式】岩国市観光振興課	岩国市 25.2%	広島市 15.7%	廿日市市 2.9%	山口市 2.0%	大阪市 2.0%	52.2%
ちかくに いわくに (岩国市公式)	岩国市 46.8%	広島市 10.3%	山口市 3.1%	周南市 3.1%	大阪市 2.4%	34.3%
ちかくに いいもの いわくにmade★	岩国市 46.5%	広島市 9.6%	廿日市市 2.3%	上海市 2.2%	大阪市 2.0%	37.4%
ええね岩国【official】岩国市シティプロモーション課	岩国市 50.6%	広島市 6.3%	大阪市 2.5%	京都市 2.5%	周南市 2.5%	35.6%

※集計期間：【公式】岩国市観光振興課[2024（令和6）年4月1日～6月29日]  
 ちかくに いわくに（岩国市公式）[2024（令和6）年4月3日～7月1日]、  
 ちかくに いいもの いわくにmade★[2024（令和6）年4月3日～7月1日]、  
 ええね岩国【official】岩国市シティプロモーション課[2024（令和6）年4月2日～6月30日]

## 3. まとめ

### (1) 豊富な観光コンテンツ

岩国市を訪れる観光客数は、コロナ禍以前は年間約 320 万人、コロナ禍後の 2024（令和 6）年には約 255 万人となっています。一方、山口県内や中国地方のみならず、関東地方からの観光客の割合は増加している傾向にあります。また、外国人観光客は年間約 11 万人が訪れ、近年、米国、台湾、香港からの観光客が多くなっています。

岩国市の中心的な観光資源は錦帯橋となっており、多くの観光客が訪れています。錦帯橋以外にも史跡や自然、食など多くの観光資源を有しており、観光の強みとして、市民からは文化・歴史や自然が多く挙げられ、観光客からも文化・歴史や自然に関する期待が高まっています。また、外国人観光客は、日本へ歴史・文化の見学・体験を求めて来訪しています。

岩国市を訪れた観光客の動向をみると、8 割以上が日帰り旅行となっており、そのうちの約 8 割は滞在時間が 1～4 時間となっています。錦帯橋を訪れた観光客の前後の立ち寄り先は「自宅から」が最も多く、アンケート結果から、日帰り旅行として、錦帯橋周辺を訪れていることがわかります。また、広島県、宮島が前後の立ち寄り先として多いことから、岩国市と広島県が一体的な観光エリアになっていることがわかります。

### (2) 観光に関わる人材

観光事業に関わる人材不足や高齢化が進んでおり、観光に関わる人材の育成が求められています。また、岩国市の観光資源について話せるガイドや外国人に対応ができるガイドなど、専門性の高いガイドの育成も求められています。

観光振興に向けた組織体制の強化が求められています。

また、市民アンケートでは、観光振興を推進するために、行政・民間企業・住民による協力体制で進めるべきという意見が多く挙がっています。

### (3) 観光客の受け入れ

岩国市の観光の利便性や快適性を高めるために、岩国市の観光の中心である錦帯橋周辺の駐車場や公衆トイレの整備といった、観光客の受入環境の整備が求められています。

観光振興に向けては、交通利便性の向上が挙げられており、路線バスや乗合タクシーは市域全体に整備されているものの、観光客向けの交通利便性に関しては、岩国地域以外の二次交通の確保やそのアクセス性の向上が求められています。

近年では、デジタル化が進み、ホームページや SNS などインターネットを利用した観光情報の収集が多くなっており、観光情報の充実が求められています。また、キャッシュレス化も進んでいることから、クレジットカードの利用可能観光施設を増やすなど、キャッシュレス化の充実が求められています。

# 第2章 岩国市の観光振興における課題

## 1. 観光コンテンツ

錦帯橋を目的に多くの観光客が訪れており、観光客の動向としては、日帰り旅行が多く、滞在時間は4時間以内と短くなっています。そのため錦帯橋周辺の魅力の向上や市内の観光資源、観光施設と連携した周遊プランの検討など、観光客の滞在や周遊の促進が必要です。

また、岩国市は歴史・文化や自然、食などの観光資源も多くあり、これらを活かした施策を観光客も期待していることから、歴史・文化、自然を活用した体験型観光の推進や特産品やお土産などの価値の向上が求められます。

### <課題解決の方向性>

観光客が多く訪れている錦帯橋周辺の魅力向上を行うことで、滞在時間を延ばし、観光による消費を促していくことが必要です。そのために、駐車場や公衆トイレ等のハード整備、歴史的建造物の活用や夜型観光の促進により、滞在時間の延長につながる取組の促進が求められます。

また、交通インフラの利便性の向上とともに、市内に点在する観光資源や施設と連携した周遊プランの検討や歴史・文化や自然を活かした体験、特産品による「飲食」の魅力発信や、中山間地域の自然を活用した体験型観光の促進により、観光客の市内消費額の増加につなげていくことが必要です。

## 2. 人材育成

岩国市では観光事業に関わる人材の不足や高齢化が進んでいます。こうした中、近年、インバウンドの増加やサステナブルツーリズム、アドベンチャーツーリズムのニーズが高まっており、市内の観光資源をさらに活かすため、観光事業者の育成や専門性の高い人材育成が必要です。

また、多くの観光客を受け入れるためには、観光に関わる事業者が連携し、観光振興に関わる組織の体制の見直しや新たな組織の構築、行政・民間企業・市民が協力し観光振興を推進できる体制づくりが必要です。

### <課題解決の方向性>

観光振興に関わる人材を育成し、多くの観光客を受け入れていくためには、人材の確保や観光事業者の連携を促進させることが求められます。市全体で観光振興を進めていくための体制の強化を行うとともに、インバウンドや体験型観光などに対応できる専門性の高いガイドや事業者の育成を推進していくことが必要です。

また、観光振興に向け、市民とともに観光客の受入環境を構築していくことが求められます。

### 3. 環境整備

観光客に安心して訪れてもらうためには、観光客の来訪が多い錦帯橋周辺の駐車場や公衆トイレ、ゴミ箱などの環境整備が求められます。また、観光客の滞在時間が短く、通過型観光が多いため、滞在時間を延ばすためには、市内周遊を促進する必要があります。そのため、公共交通のさらなる利便性の向上が必要です。

また、近年、デジタル化が進み、インターネットを活用した観光情報の収集やキャッシュレス決済が多くなっているため、インターネットや SNS 等を活用した、効果的、効率的な情報発信の促進や、キャッシュレス決済の導入などが求められます。

#### <課題解決の方向性>

駐車場や公衆トイレ等のハード整備により、訪れた観光客が安心して、滞在できる環境を整備し、滞在時間の延長につなげていくことが必要です。通過型観光を滞在型観光へとしていくために、点在している観光地を二次交通でつなげ、観光資源の活用、市内周遊を促進させることが求められます。

観光客の利便性の向上と観光事業の効率化につながる取組として、キャッシュレス決済や事前決済システムの導入、ターゲットを明確にした効果的かつ効率的なプロモーションなどにより、観光客の受入環境を向上させることが必要です。また、SNS の活用による広島・宮島との連携やインバウンドを対象にした情報発信を行うことで、認知度の向上や観光客の誘客、市域を越えた多様な組織、団体との連携につなげていくことが求められます。

# 第3章 岩国市の目指す観光振興の姿

## 1. 観光ビジョンの基本理念

「観光」という言葉の語源は「国の光を観る」とされており、地域の優れた「光」を観ることが「観光」と言えます。

岩国市の優れた「光」としては、清流錦川を代表とした豊かな自然、吉川家を代表とする先人が創りあげた世界に誇れる歴史・文化、地域に根差した多種多様な資源や風土があります。

岩国市内での滞在時間を延ばし、市内周遊を促進させるために、錦帯橋周辺や様々な観光資源の魅力を高め、資源の価値を“みがく”こと、歴史・文化や自然等を活かすために、体験型観光の促進や魅力を創出し潜在資源を“いかす”こと、観光振興を促進していくために、組織体制づくりや地域の連携等、ひとや地域を“つなぐ”ことが必要です。

また「光」を観せるため、そこに暮らしている私達が、その素晴らしさを再認識するとともに、新しい魅力を創造し、愛着と誇りを持って未来へ伝えることが必要です。

岩国市の「光」に対する愛着と誇り、またそれを伝える姿勢を市民の美学と捉え、この美学を地域に根づかせ、未来を拓いていくことが、岩国市が目指す観光の姿です。

このような考え方にに基づき、「岩国市観光ビジョン」の基本理念を次のように設定します。

### — 岩国市観光ビジョンの基本理念 —

## 『未来への創造』

岩国市民が、  
岩国の魅力を再認識し、  
新しい魅力を創造し、  
愛着と誇りを持って  
未来へ伝える。

## 2. 観光ビジョンの方向性

前述の基本理念及び、岩国市の観光の現状と課題を踏まえ、『未来への創造』をキャッチフレーズとして、“みがく”“いかす”“つなぐ”をキーワードに、観光ビジョンの3つの方向性と取組を以下のとおりとします。

### 方向性①

#### 「錦帯橋周辺などの顕在資源を新たな発想で“みがく”」

岩国市の観光の中心である錦帯橋周辺の魅力の向上とともに、安心して訪れることのできる環境の整備を行います。また市内には様々な観光資源が点在しているため、それぞれの観光資源の魅力を向上させ、市内での周遊を促進していくことで、滞在時間を延ばし、観光消費額の向上へとつなげていきます。

### 方向性②

#### 「市域の潜在資源を新たな活用で“いかす”」

市内の歴史・文化や自然を活かした体験型観光の促進や「食」の価値向上等を行うことで、観光資源の活用を促進していきます。また、観光客の受入環境の確保とともに、観光を通じて岩国市の魅力を伝えるガイドや観光事業者の育成により、ファンやリピーターの獲得へつなげていきます。

### 方向性③

#### 「一体的な観光振興に向けた新たな絆で“つなぐ”」

多くの観光客を受け入れるために、観光事業者の人材確保や育成を行うとともに、市全体で観光振興を行う体制の強化を進め、市域を越えた多様な組織、団体との連携等を行います。

また、認知度を向上させるための情報発信とともに、効率的、効果的な観光客の受入環境の整備としてキャッシュレス決済や事前決済の導入を進めます。

## 重点的に取り組む視点

### ① 世界文化遺産登録に向けて

錦帯橋は世界文化遺産登録を目指しており、世界文化遺産に登録されることで、国内観光客のみならず、インバウンドの増加も考えられます。認知度の向上に向けた、プロモーション等の情報発信や駐車場の整備、増加する観光客に対応する公衆トイレ、ベンチの設置や改修、観光客の利便性の向上や滞在しやすい環境づくりなど、受入環境の整備を行います。

### ② 移動(周遊・交通)

現在、岩国市を訪れる観光客の滞在時間が短く、通過型観光になっていることから、観光客の市内周遊を促進させるため、公共交通の利便性の向上につながる検討を行います。

### ③ 体験型観光

岩国市内には豊かな自然があり、歴史・文化、産業など、様々な観光資源があります。自然や産業を活かした体験型観光の促進や学習、教育の場としての活用を行うとともに、事業者やガイドの育成を促進していきます。

### ④ 観光事業者・団体

観光振興に向けて、観光事業者や団体を中心として取組を行うことが求められます。事業者の連携を進めるとともに、観光ガイド、事業者等の観光に関わる人材の育成を進めていきます。また、観光に関わる組織体制の見直しやDMO等の組織構築の検討を行います。

### ⑤ デジタル化

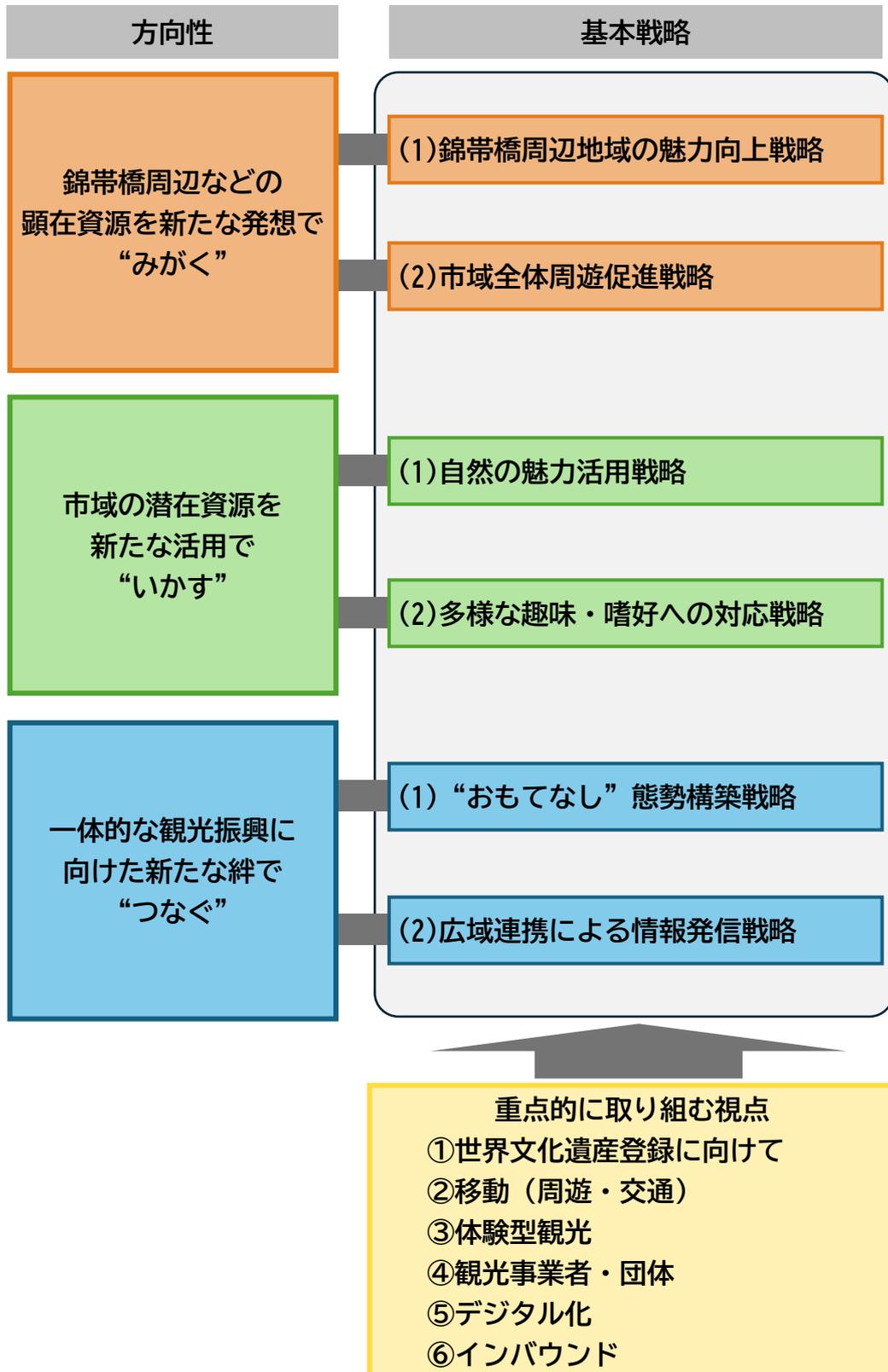
観光客の利便性の向上と観光事業の効率化に向け、キャッシュレス決済や事前決済システム等の導入を進めていきます。また、インターネットやSNSを活用した、効果的、効率的な情報発信を進めていきます。

### ⑥ インバウンド

現在、広島や宮島には多くの外国人観光客が訪れていますが、岩国市の認知度は低い状況です。岩国市でインバウンドを促進していくためには、広島や宮島を訪れた外国人観光客に対する認知度の向上につながる施策とともに、多言語化の充実によるパンフレットやホームページの作成、外国語が話せるガイドの育成などにより、インバウンド誘客につながる情報発信や環境整備を行います。

### 3. 観光ビジョンの基本戦略

観光ビジョンの方向性ごとに2つずつ、計6つの基本戦略と、近年の動向、ニーズより、重点的に取り組む視点を設定します。



# 第4章 岩国市の観光振興の方針・戦略

## 1. 錦帯橋周辺などの顕在資源を新たな発想で“みがく”

### (1) 錦帯橋周辺地域の魅力向上戦略

#### <現状・課題>

錦帯橋周辺は、山口県を代表する観光地であり、県内唯一の復刻天守の岩国城やロープウエーも人気の観光資源となっています。しかしながら、駐車場が河川敷内にあることや、公衆トイレの老朽化等、多くの観光客を受け入れる環境の整備が十分とは言えない状況です。

錦帯橋周辺を訪れる全ての観光客が快適に過ごし、満足することができる観光地としての環境整備を図る必要があります。また、錦川や城山などの美しい自然や、錦帯橋を中心とした江戸期由来の城下町の景観を構成する歴史的・文化的観光資源を継承するとともに、新たな魅力の創出につながる活用を進めることが必要です。

#### <戦略>

錦川の増水により使用できなくなる下河原の駐車場を段階的に移転することにより、観光客の動線を城下町内に広げることで、新たな回遊を生み出し、観光地としての賑わいの創出を図ります。

錦帯橋周辺に多く現存する歴史的建築物を、主に観光客を対象とした用途で保存活用を進め、景観の保全とともに、観光客の滞在時間の延長や夜型観光の推進を図ります。

トイレの洋式化や更新、外国語表記の充実、多言語ガイドの育成など、インバウンドを含めた観光客の受入環境の整備を進めます。また、錦帯橋の世界文化遺産登録の取組を進め、より多くの観光客にその価値を伝えることにより、錦帯橋を中心とした城下町地区の保存と継承を図ります。

#### <取組>

No.	取組内容	重点的な視点						重点PJ	ロードマップ			実施主体
		①	②	③	④	⑤	⑥		前期 (R8~11)	中期 (R12~14)	後期 (R15~17)	
1	錦帯橋下河原駐車場に代わる駐車場の整備	○						★	検討・計画・整備			行政
2	公衆トイレやゴミ箱等の観光客の受入環境の整備	○						★	検討 計画	整備		行政
3	夜型観光の促進に向けた取組			○				★	検討・計画・実施			行政 観光事業者
4	錦帯橋や重要文化財、歴史的建築物の保存活用、継承	○		○					検討・計画・実施			行政 観光事業者
5	錦帯橋の世界文化遺産登録に向けた取組	○		○					実施			行政
6	多言語表記の充実等、外国人観光客の受入環境の整備					○	○		検討・計画・実施			行政 観光事業者

## <具体的な取組>

No.	内容
1	▶ 駐車場の整備
2	▶ 公衆トイレの整備・改修 ▶ ゴミ箱やベンチの設置の検討
3	▶ 錦帯橋、桜のライトアップの実施 ▶ ロープウエーの夜間運行の実施 ▶ ナイトツーリズムのツアー造成
4	▶ 歴史的建築物等の保存活用・継承 ▶ 重要文化財、文化的景観などの文化財の保存活用
5	▶ 錦帯橋の世界文化遺産への登録 ▶ 関係事業者と連携した受入体制の整備 ▶ インバウンドへの対応等、錦帯橋周辺の環境整備 ▶ (仮称) 錦帯橋ビジターセンターの整備
6	▶ 看板などの多言語表記の充実 ▶ 観光施設や公共交通機関の乗り場案内の多言語化 ▶ 多言語に対応できるガイドの育成

## <イメージ>

### ▶ 駐車場の整備

- ▶ 公衆トイレの整備・改修
- ▶ ゴミ箱やベンチの設置の検討

錦帯橋下河原駐車場に代わる観光駐車場の整備や公衆トイレの整備やゴミ箱、ベンチの設置の検討を行い、観光客の駐車場の確保や受入環境の整備を行う。



### ▶ 錦帯橋周辺地区の古民家の活用

令和6年5月14日に締結した「歴史的資源を活用した観光まちづくりの推進に関する連携協定」に基づき、歴史的資源や歴史的建築物の活用による、観光まちづくりや地区の賑わいの創出に取り組む。



「(株)リタ」「(株)つぎと」と連携協定を締結

### ▶ 夜型観光の促進

錦帯橋や桜のライトアップを継続的に実施するとともに、ロープウエーの夜間運行の検討、ナイトツーリズムのツアー造成等、夜間の観光コンテンツを充実させることで、夜型観光の促進や宿泊観光の促進を図る。



### ▶ 多言語表記の充実

外国人観光客の受入環境の整備として、観光施設の看板や公共交通機関の乗り場案内などで多言語表記を充実させ、外国人観光客の来訪、誘客を促進する。



## (2) 市域全体周遊促進戦略

### <現状・課題>

岩国市での観光の滞在時間は、1～4時間が約8割となっており、日帰りの観光が多くなっています。宮島や広島市、山口県中西部などの広域的な観光ルートの一つとして錦帯橋を訪れている観光客が多く、市内の他の観光地への周遊につながっていません。また、観光客の多くがインターネットやSNSにより観光に関する情報を収集していることから、観光に関する効果的な情報発信も必要です。

そのため、岩国市内での滞在や周遊の促進に向け、各観光施設と連携した周遊プランや二次交通の利用促進につながる検討を行い、観光客に向けた魅力的な情報発信を進めます。

### <戦略>

観光客の滞在時間増加に向け、市内全体の周遊プランの検討を進めます。周遊プランやコンテンツの検討にあたっては、各観光施設の受入環境の整備や施設間の情報共有ができる体制を構築し、観光施設のみならず、宿泊施設や公共交通の利用促進にもつなげます。

また、パンフレットやSNSを活用した魅力的な情報発信を進めるとともに、二次交通の利用促進を図り、市内周遊を促進します。

### <取組>

No	取組内容	重点的な視点						重点 PJ	ロードマップ			実施主体
		①	②	③	④	⑤	⑥		前期 (R8~11)	中期 (R12~14)	後期 (R15~17)	
1	市内での周遊を促進させるための二次交通の利用促進		○					★	検討・実施			行政 民間事業者
2	観光施設や宿泊施設、公共交通の利用促進につながる周遊プラン・コンテンツの検討		○					★	検討・実施			行政 観光事業者
3	錦川清流線の利用促進に向けたプロジェクトの展開		○						検討・実施			行政 民間事業者
4	各観光施設の受入環境の整備や施設間の情報共有				○				検討	実施		行政 観光事業者
5	観光パンフレットやSNSを活用した観光情報の発信					○	○		検討・計画・発信			行政 観光事業者
6	多言語に対応したホームページの活用や定期的な情報の更新					○	○		実施			行政 観光事業者

## <具体的な取組>

No.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 他の交通インフラと路線バスとの接続の利便性を高める。</li> <li>▶ 公共交通の乗り場案内や行先表示等、利用しやすい環境づくり</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 岩国錦帯橋空港などの交通結節点や観光地での誘客イベントの開催</li> <li>▶ 宿泊型を含む周遊プランの造成</li> <li>▶ 観光施設と連携したスタンプラリーなどの周遊企画の実施</li> <li>▶ MaaS*の推進</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ イベント利用等、錦川清流線の利用促進事業の実施</li> <li>▶ 観光施設等と連携した、鉄道資源活性化事業の検討</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光施設へ事前決済システムの導入</li> <li>▶ DX化による観光施設利用者の属性の把握</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光パンフレットを活用した観光コンテンツの発信</li> <li>▶ インフルエンサーと連携した SNS での情報発信</li> <li>▶ ターゲット設定をした観光情報の発信</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 四季に合わせた観光情報の発信</li> <li>▶ インバウンド向けのホームページの作成</li> </ul>

\*MaaS（マース/Mobility as a Service）：地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段

## <イメージ>

### ▶ 錦川鉄道の利用促進事業

錦川清流線の利用を促進させるためのイベントの実施や周遊プランの検討等、利用促進につながる事業を実施する。また、観光施設と連携し、鉄道資源の活性化につながる事業の検討を行う。



### ▶ 観光パンフレットを活用した観光コンテンツの発信

観光パンフレットを活用し、観光コンテンツや魅力の発信を行う。また、観光パンフレットを多言語対応させることで、インバウンドへの発信を促進する。



### ▶ 観光施設へ事前決済システムの導入

### ▶ 観光施設利用者の属性の把握

入場券の事前決済やデジタル化、観光施設でのDX化の推進により、観光施設の利便性の向上と利用者の情報管理の一元化ができ、観光施設の利用者の属性やニーズの把握を行う。



### ▶ ターゲット設定をした観光情報の発信

### ▶ インバウンド向けのホームページの作成

観光パンフレットや SNS 等でターゲットを明確にした観光情報の発信を行うことで、認知度の向上や誘客を図る。また、ホームページもターゲットに合わせた言語に対応させる。



## 2. 市域の潜在資源を新たな活用で“いかす”

### (1) 自然の魅力活用戦略

#### <現状・課題>

近年では、自然や文化の体験を目的とした観光ニーズが高まっています。岩国市内には、海や川、山、島などの多くの自然や、神楽などの伝統芸能が多くあり、観光資源として、その魅力を活かすことが可能です。こうした環境を生かし、自然体験プログラムとして修学旅行生などを受け入れる体験型教育旅行を進めてきましたが、一方で、受入家庭の高齢化や事業者の不足などの課題があります。

引き続き、岩国市の中山間地域では、自然や景勝地、伝統芸能などを活用した体験型観光の推進やPR活動を進めるとともに、地域と協力した民泊等の受入体制の強化や人材育成を行うことが必要です。

#### <戦略>

岩国市にある多様な自然や地域資源を活かした体験型観光を進めるとともに、自然を学びの場とした小学校の自然学習や、修学旅行を対象とした体験型教育旅行の誘致を行います。一方で、体験プログラムの指導者や民泊数など、受入環境が十分ではないため、体制の構築を進めます。

近年、サステナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムへの機運が高まっており、山口県でもアウトドアツーリズムの推進に向け取り組んでいます。こうした中で体験素材の充実や開発とともに、観光ガイドの育成やPR活動を進め、自然や文化を体験できる観光につなげます。

\*アウトドアツーリズム：観光トレンド(サステナブルツーリズム、自然志向)を的確に捉え、山口県の強みである「自然」のポテンシャルを活かした、アウトドアに着目した山口ならではの新たなツーリズム

#### <取組>

No.	取組内容	重点的な視点						重点PJ	ロードマップ			実施主体
		①	②	③	④	⑤	⑥		前期 (R8~11)	中期 (R12~14)	後期 (R15~17)	
1	自然や地域資源を活用した体験型観光の促進			○			○		企画・実施			行政 観光事業者
2	アウトドア事業者と連携した体験型観光の造成			○	○		○	★	企画 検討	実施		行政 民間事業者
3	サステナブルツーリズムやアドベンチャーツーリズムの推進			○	○		○	★	体制 構築	実施		行政 観光事業者
4	地域の歴史・文化、地勢のストーリーをつなぐ伝えるコンテンツやツアー造成			○	○		○	★	検討・計画・実施			行政 観光事業者
5	小学校の自然学習や修学旅行生を対象とした体験型教育旅行の促進			○					企画 検討	発信・実施		行政・市民 観光事業者
6	体験や民泊等、地域の受入環境の整備			○	○				検討 調整	実施		行政 市民

## <具体的な取組>

No.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 錦川を活用した体験型観光の企画、実施</li> <li>▶ 弥栄湖周辺施設を活用した体験型観光の企画、実施</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 事業者と連携した体験型観光事業の促進、規模拡大</li> <li>▶ 農業体験や漁業体験ができるツーリズムの開発</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 地域資源を活用したサステナブルツーリズムの検討、実施</li> <li>▶ 自然を活用したアウトドアツーリズムの検討、実施</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 錦川を活用したコンテンツの検討</li> <li>▶ VRやARなどのデジタルコンテンツの造成</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 小学生向けの体験型教育旅行の検討</li> <li>▶ 錦川や農産物を活用した自然学習の実施</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 古民家を活用した宿泊施設の整備検討</li> <li>▶ 地域おこし協力隊と連携した地域の受入環境の整備</li> </ul>

## <イメージ>

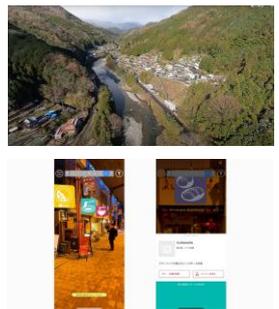
### ▶ 錦川を活用した体験型観光

錦川でのラフティング体験や沢トレッキング体験等、錦川での体験型観光を実施する。



### ▶ VRやARなどのデジタルコンテンツの造成

VRを活用し、岩国市の魅力をどこからでも感じられるようなデジタルコンテンツの造成やARを活用した観光等、デジタル技術を活用したコンテンツを検討する。



### ▶ 地域資源を活用したサステナブルツーリズムやアウトドアツーリズムの検討、実施

錦川やらんかん高原等、やましろ地域をはじめとする豊かな地域資源を活用したサステナブルツーリズムやアウトドアツーリズムを実施する。



### ▶ 地域おこし協力隊と連携した地域の受入環境の整備

地域おこし協力隊と連携、協力を行い、観光資源の活用、地域の受入環境を構築し、観光客の受入環境の整備を促進する。



## (2) 多様な趣味・嗜好への対応戦略

### <現状・課題>

岩国市では、自然や歴史・文化などの観光資源のほか、広島東洋カープ由宇練習場や愛宕スポーツコンプレックスなどのスポーツコンテンツを観光資源として有しています。また、地域の特産品を活かしたブランド化に取り組み、お土産総ブランド「つまんでちょんまげ」シリーズの開発、支援等を行っています。

こうした特産品やお土産品、スポーツコンテンツ等の観光資源の価値をより高めるため、観光客のニーズなどを把握し、活用の幅を広げていくことが必要です。

### <戦略>

岩国市には、お土産総ブランド「つまんでちょんまげ」シリーズをはじめ、日本酒や岩国れんこん、がんね栗などの「食」の魅力を多く有しており、インバウンドや国内の観光客など、ターゲットを明確にしたプロモーションや「食」を中心とした観光施策により、特産品やお土産等の価値向上を図ります。

愛宕スポーツコンプレックスを活用し、スポーツなどの誘客イベントを開催します。

由宇地域においては、広島東洋カープ由宇練習場を中心とした「カープタウン」として、多くの観光客を受け入れており、引き続き、地域としてスポーツを活用した観光振興を進めます。

### <取組>

No.	取組内容	重点的な視点						重点PJ	ロードマップ			実施主体
		①	②	③	④	⑤	⑥		前期 (R8~11)	中期 (R12~14)	後期 (R15~17)	
1	観光客のニーズや宿泊施設の実態の把握			○	○				継続的な調査実施			行政 観光事業者
2	特産品を活用した観光振興、販路開拓				○			★	企画・実施			行政 観光事業者
3	「食」の魅力の向上				○			★	企画・実施			行政 観光事業者
4	岩国の日本酒を活用した観光の推進				○		○	★	企画・調整・実施			行政 民間事業者
5	ターゲットに合わせたプロモーションの実施					○	○		企画・実施			行政 観光事業者
6	スポーツコンテンツを活用した観光の推進			○	○		○		企画・実施			行政 観光事業者

## <具体的な取組>

No.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光動態調査の実施</li> <li>▶ 宿泊施設の利用実態の調査の実施</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ イベントでの特産品のPR</li> <li>▶ 首都圏での観光物産展などの開催</li> <li>▶ 地域の特産品を活用した商品の開発</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 民間企業と連携したプロジェクトの実施</li> <li>▶ 岩国寿司、大平等、郷土料理のPR</li> <li>▶ 岩国れんこん、高森牛、がんね栗、天然鮎や由宇とまと等、特産品の価値向上につながる企画、実施</li> <li>▶ 多様な食文化やそのストーリーの魅力に触れるガストロノミーツーリズムの検討、実施</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 岩国日本酒プロジェクトの実施</li> <li>▶ 市内外に向けた日本酒PRによる観光誘客</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 首都圏に向けた観光プロモーションの実施</li> <li>▶ 豪華客船の寄港に合わせた特別な体験や食の検討</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 由宇地域における広島東洋カーブとの連携による関連事業の企画、実施</li> <li>▶ 愛宕スポーツコンプレックスの活用検討</li> </ul>

\*ガストロノミーツーリズム：その土地、気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって、育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的にしたツーリズム

## <イメージ>

### ▶ 特産品のPR

岩国市内での特産品 PR のみならず、首都圏でのイベントや観光物産展の開催、WEB 販売の実施等、特産品を活用した岩国市のPR や販路拡大を行うことで、情報の発信や認知度の向上を図る。



### ▶ 特産品の価値向上

「つまんでちょんまげ」シリーズのような特産品のブランド化や農産物の価値向上などにより、「食」の魅力を高める。



### ▶ 岩国日本酒プロジェクトの実施

岩国五蔵と連携した、岩国日本酒プロジェクトの企画、実施により、日本酒のPR を促進させることで認知度向上を図り、インバウンドを含む観光誘客を行う。



### ▶ 由宇地域における広島東洋カーブとの連携

由宇地域は、「カーブタウン」として、広島東洋カーブ由宇練習場や由宇駅の活用等、由宇地域と広島東洋カーブが連携した事業を企画し、地域の魅力を向上させる。



### 3. 一体的な観光振興に向けた新たな絆で“つなぐ”

#### (1) “おもてなし” 態勢構築戦略

##### <現状・課題>

岩国市の観光振興に向けては、観光に関わる事業者の不足や高齢化が進んでいることから、人材育成や観光客を受け入れるための体制づくり、観光客の受入環境の整備が求められています。観光振興を進めていくうえで、行政、民間企業、住民が連携し、人口減少や少子高齢化などの課題を踏まえた協力体制を構築していくことも必要です。

##### <戦略>

岩国市全体で観光振興を行っていくためには、観光に関わる組織の連携、観光客の受入に対する市民の理解や協力が必要です。そのため、人材の育成とともに、行政、民間企業、住民が協力した観光振興の体制構築を図ります。

また、観光客の受入環境の整備として、キャッシュレス決済のシステム導入や観光施設の維持管理や機能向上の検討を進めていきます。

##### <取組>

No.	取組内容	重点的な視点						重点PJ	ロードマップ			実施主体
		①	②	③	④	⑤	⑥		前期 (R8~11)	中期 (R12~14)	後期 (R15~17)	
1	市全体で観光振興を推進する組織体制の強化				○			★	検討	体制の構築		行政 観光事業者
2	行政・民間企業・住民が協力した観光振興の推進体制の構築				○			★	検討	連携体制の構築		行政・市民 観光事業者
3	観光ガイドや観光に関わる人材の育成				○		○	★	検討・計画・実施			行政 観光事業者
4	観光施設の維持管理や機能向上								検討・計画・実施			行政
5	キャッシュレス決済に対応したシステムの導入					○	○	★	検討	実施		行政

## <具体的な取組>

No.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 庁内、事業者の連携や人員体制の見直し</li> <li>▶ 観光推進組織（DMO）の設立等、一体的な観光振興に向けた、体制の構築</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 行政、民間事業者、住民での意見交換の実施</li> <li>▶ 中小企業等との連携等、新たな事業展開</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ガイドボランティア協会と連携</li> <li>▶ 観光ガイドの養成セミナーの開催</li> <li>▶ 清掃活動等、日常的な環境整備の実施</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 観光施設の維持管理業務</li> <li>▶ 観光施設の経済効果を測る手法や指標の検討</li> <li>▶ 潮風公園みなとオアシスゆうの観光事業の充実</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ キャッシュレス決済の拡充</li> </ul>

## <イメージ>

### ▶ 行政、民間事業者、住民での意見交換の実施

観光振興について、行政、民間事業者、住民が意見交換を行う機会を創出し、行政のみならず民間企業や住民とも協力しながら観光振興を進められる体制を構築する。



### ▶ 観光ガイドの育成

観光客の満足度を高め、地域の文化や歴史、観光施設の魅力を伝えるため、ガイドボランティア協会と連携した観光ガイド養成セミナーを開催することで、観光ガイドの育成を行う。



### ▶ 潮風公園みなとオアシスゆうの観光事業の充実

夏季の海水浴のみならず、レストランやカフェ、物産販売等、観光利用として、年間を通じた施設の活用を検討



### ▶ キャッシュレス決済の拡充

キャッシュレス決済を拡充することで、観光客の受入環境の向上やデジタル化を促進させる。



## (2) 広域連携による情報発信戦略

### <現状・課題>

岩国市を訪れる前後に山口県内や広島県、福岡県など、岩国市の周辺地域を訪れている観光客が多くなっています。また、広島や宮島には多くのインバウンドが訪れているほか、由宇地域は周防大島等へ向かう観光客の経路の途中に位置するなど、周辺地域との連携を踏まえた誘客を図る必要があります。

そのため、周辺地域と連携した周遊プランの検討、ターゲットを明確にした観光戦略や情報発信、インバウンドを対象としたプロモーションの推進など、広域連携による効果的な取組の実施が必要です。

### <戦略>

広島広域都市圏を構成する自治体や市域を越えた多様な組織・団体と連携し、広島・宮島等の近隣市町を訪れる観光客を岩国市に誘客します。

空路が繋がっている首都圏や沖縄県の新たな誘客を目的とした岩国錦帯橋空港の利用促進を進めます。また、外国人観光客に向けた認知度向上を図るために、多言語化によるホームページや SNS の情報発信の充実、プロモーションの実施など、新たな誘客につながる取組を進めます。

### <取組>

No.	取組内容	重点的な視点						重点 PJ	ロードマップ			実施主体
		①	②	③	④	⑤	⑥		前期 (R8~11)	中期 (R12~14)	後期 (R15~17)	
1	広島・宮島等の近隣市町を訪れた観光客の誘客				○		○	★	検討・企画・発信			行政 観光事業者
2	広島広域都市圏を構成する自治体との連携				○			★	連携体制の構築 継続的な取組の実施			行政 観光事業者
3	市域を越えた多様な組織・団体・地域との連携				○			★	連携体制の構築 継続的な取組の実施			行政 観光事業者
4	岩国錦帯橋空港の利用促進に向けた情報発信・プロモーションの実施				○	○	○		検討・企画・発信			行政 観光事業者
5	ホームページや SNS を活用した情報発信や多言語化					○	○		検討・企画・発信 多言語化			行政 観光事業者
6	外国人観光客に向けた情報発信や認知度の向上					○	○		検討・計画・発信			行政 観光事業者

## ＜具体的な取組＞

No.	具体的案取組
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広島・宮島からのインバウンドの誘客に向けた、ツーリズムや商品の開発</li> <li>▶ 広島・宮島と連携したPR活動の実施</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広島広域都市圏を構成する自治体との誘客に向けた連携</li> <li>▶ 自治体間での観光に関する情報交換や意見交換の機会の創出</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 広域で観光面の連携を目的とした協議会などでの情報交換や意見交換</li> <li>▶ 市域を越えた周遊イベントの企画、実施</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 首都圏に向けた岩国錦帯橋空港の利用促進に向けた情報発信</li> <li>▶ 東京、沖縄と岩国錦帯橋空港を拠点とした連携</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ WEB、テレビメディアを活用した情報発信</li> <li>▶ SNSを活用した多言語に対応した情報発信</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ホームページやパンフレットの多言語化の実施</li> <li>▶ 外国人向けのプロモーションの作成</li> </ul>

## ＜イメージ＞

### ▶ 広島・宮島からのインバウンドの誘客の促進

広島や宮島を訪れているインバウンドの誘客に向けたツーリズムや商品の開発等、広島・宮島と連携した取組を促進する。また、広島・宮島と連携したPR活動を実施する。



### ▶ 市域を越えた連携や交流の場の構築

広島・宮島等、市域を越えた一体的な観光を考えていくために、自治体間での情報交換や意見交換の機会の創出や事業者の交流の場を構築し、広域的な観光振興について検討を行う。



### ▶ 岩国錦帯橋空港の利用促進に向けた情報発信

空路が繋がっている首都圏や沖縄県を対象とした空港の利用促進につながる取組の実施や情報発信により、新たな観光誘客を図る。



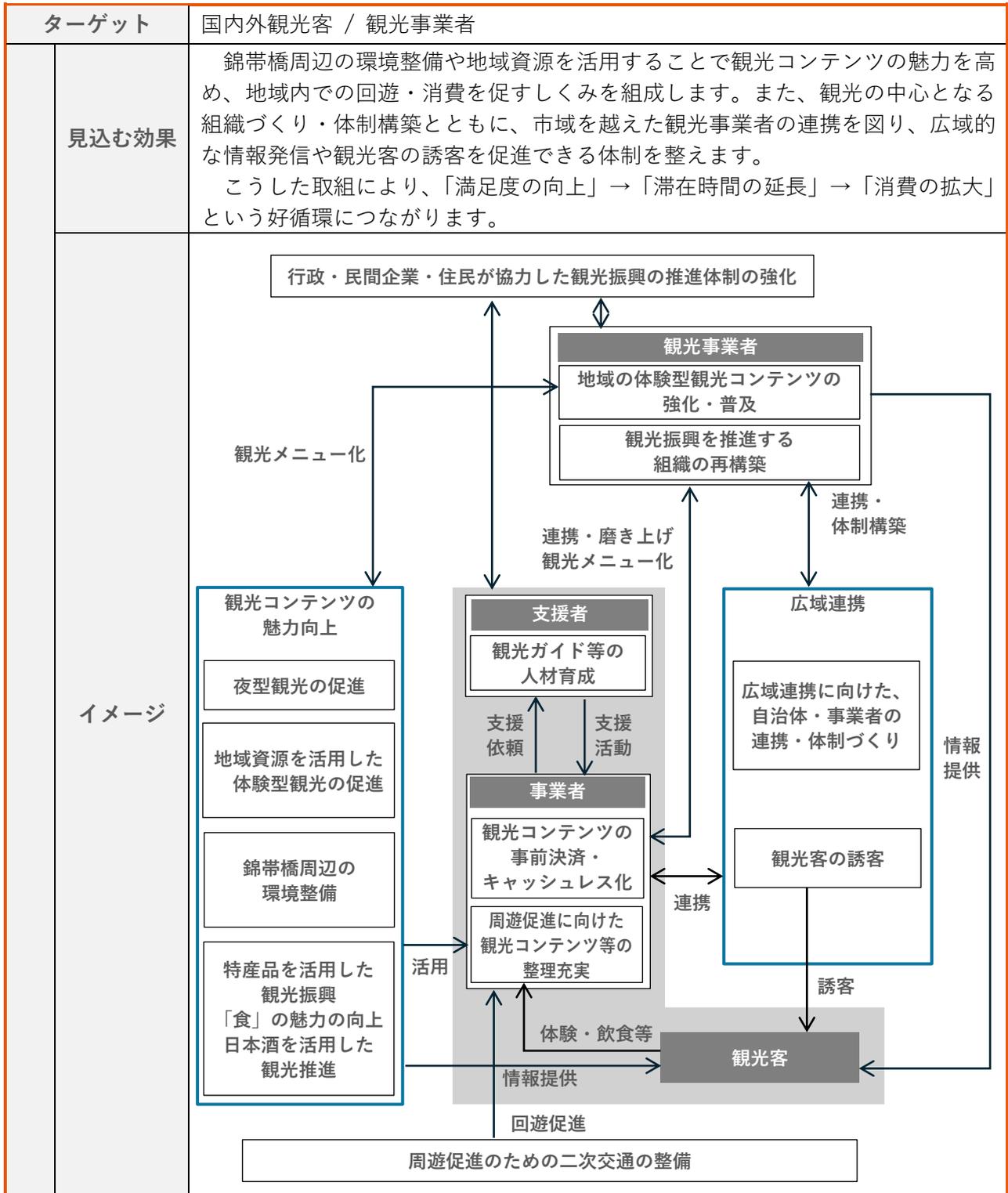
### ▶ 外国人向けのプロモーションの作成

インバウンドの誘客や認知度を高めるために、ターゲットを明確にした観光プロモーションの作成や多言語対応した情報発信を行う。



## 4. 重点プロジェクト

重点プロジェクトによる効果と各取組の関係について、以下に整理します。



具体的な取組	<p><b>○観光コンテンツの魅力向上</b></p> <p>滞在時間の延長を図るために、夜型観光や体験型観光、また、日本酒などの特産品や食の魅力を活用するとともに、駐車場や公衆トイレ、ゴミ箱の設置など、観光客を受け入れる環境整備を進めていきます。</p>
	<p><b>○行政・民間企業・住民が協力した観光振興の推進体制の強化</b></p> <p><b>○観光振興を推進する組織の再構築</b></p> <p>市全体の観光波及を見据えた、観光推進を図るために、観光振興を推進する組織の体制強化を図るとともに、行政・民間企業・住民が岩国市の観光振興について考え、地域として観光振興を促進していく推進体制を構築していきます。</p>
	<p><b>○地域の体験型観光コンテンツの強化・普及</b></p> <p>中山間地域を含めた体験・観光コンテンツについてサステナブルな観光コンテンツとしての磨き上げ等の支援を行うとともに、その普及・コンテンツの一元的な情報発信手法等を検討していきます。</p>
	<p><b>○広域連携に向けた、自治体・事業者の連携・体制づくり</b></p> <p>広島・宮島等の周辺地域の自治体や事業者と連携体制を構築し、広域的な情報提供や事業者間の意見交換等を行うとともに、観光客の誘客を促進していきます。</p>
	<p><b>○観光コンテンツの事前決済・キャッシュレス化の検討</b></p> <p>観光事業者と連携し、キャッシュレス決済等の導入や連携した事業者の観光コンテンツを一元管理し、事前の予約・決済等ができる状況を構築することにより、市で観光・体験がしやすい環境を構築します。</p>
	<p><b>○周遊促進に向けた観光コンテンツ等の整理充実</b></p> <p>地域内事業者の観光・体験コンテンツについて整理するとともに、錦帯橋周辺的环境整備や特産品の活用等と観光コンテンツを充実させ、情報提供を行います。</p>
	<p><b>○観光ガイド等の人材育成</b></p> <p>観光地の魅力普及、体験型観光やインバウンドに対応できる観光ガイド等の育成に向け、学習機会や研修プログラムの構築や、観光地に関わりたい人材が、観光事業者の支援やおもてなしの活動に参加できる機会・しくみを創出します。</p>
	<p><b>○周遊促進のための二次交通の整備</b></p> <p>錦帯橋周辺の移動や市内周遊を促進させるため、利便性の高い地域内移動につながる二次交通の運用を検討していきます。</p>

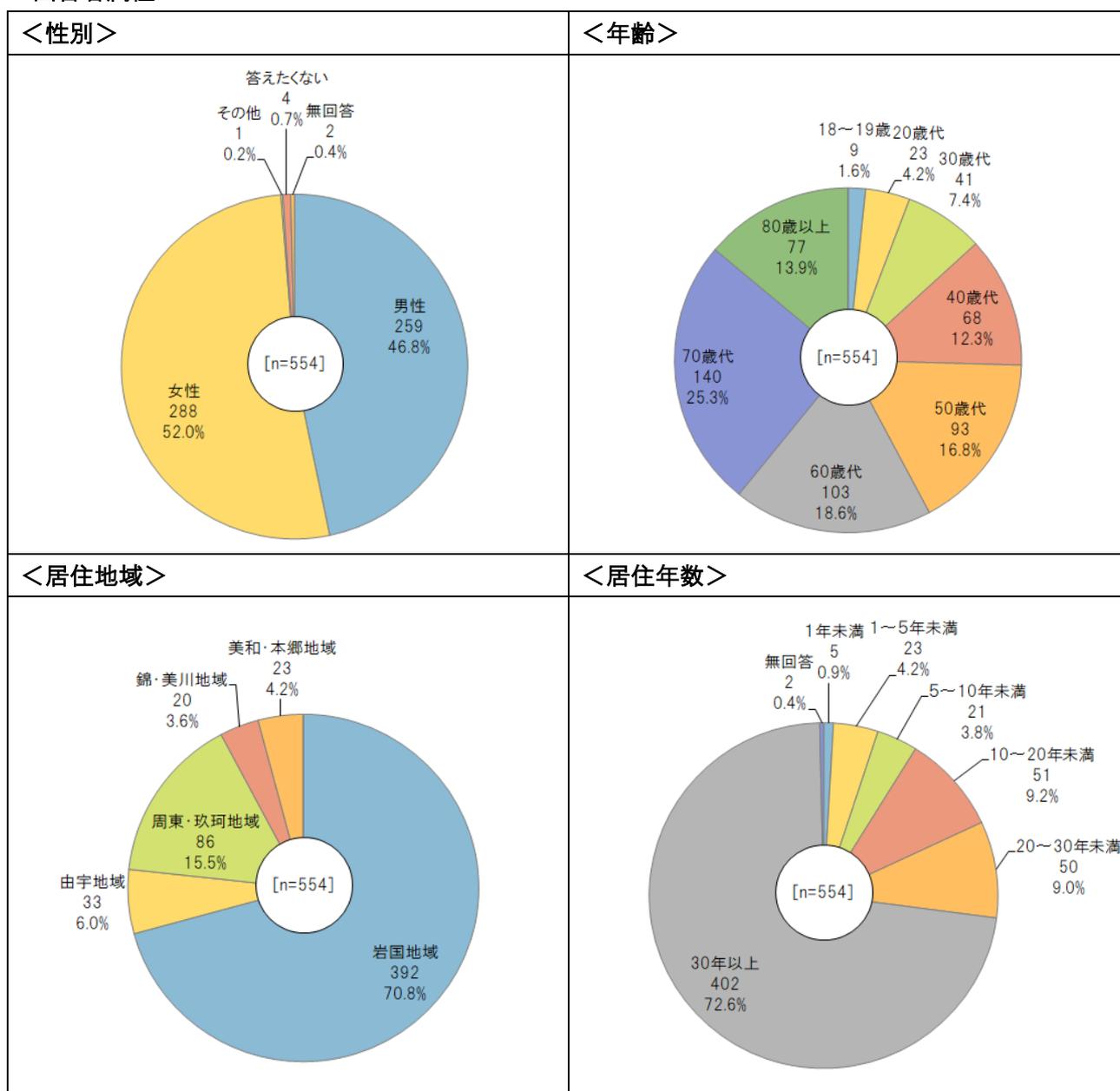
# 参考資料

## 1. 市民アンケート調査

### ■概要

対象者	18歳以上の市民 1,500人 を無作為で抽出
実施期間	2024（令和6）年8月1日～8月18日（≠切日）
配布数・回収率	配布：1,500通、回収数 554通（郵送：442通 WEB：112通） 回収率 36.9%

### ■回答者属性



## 2. 観光客の動向調査

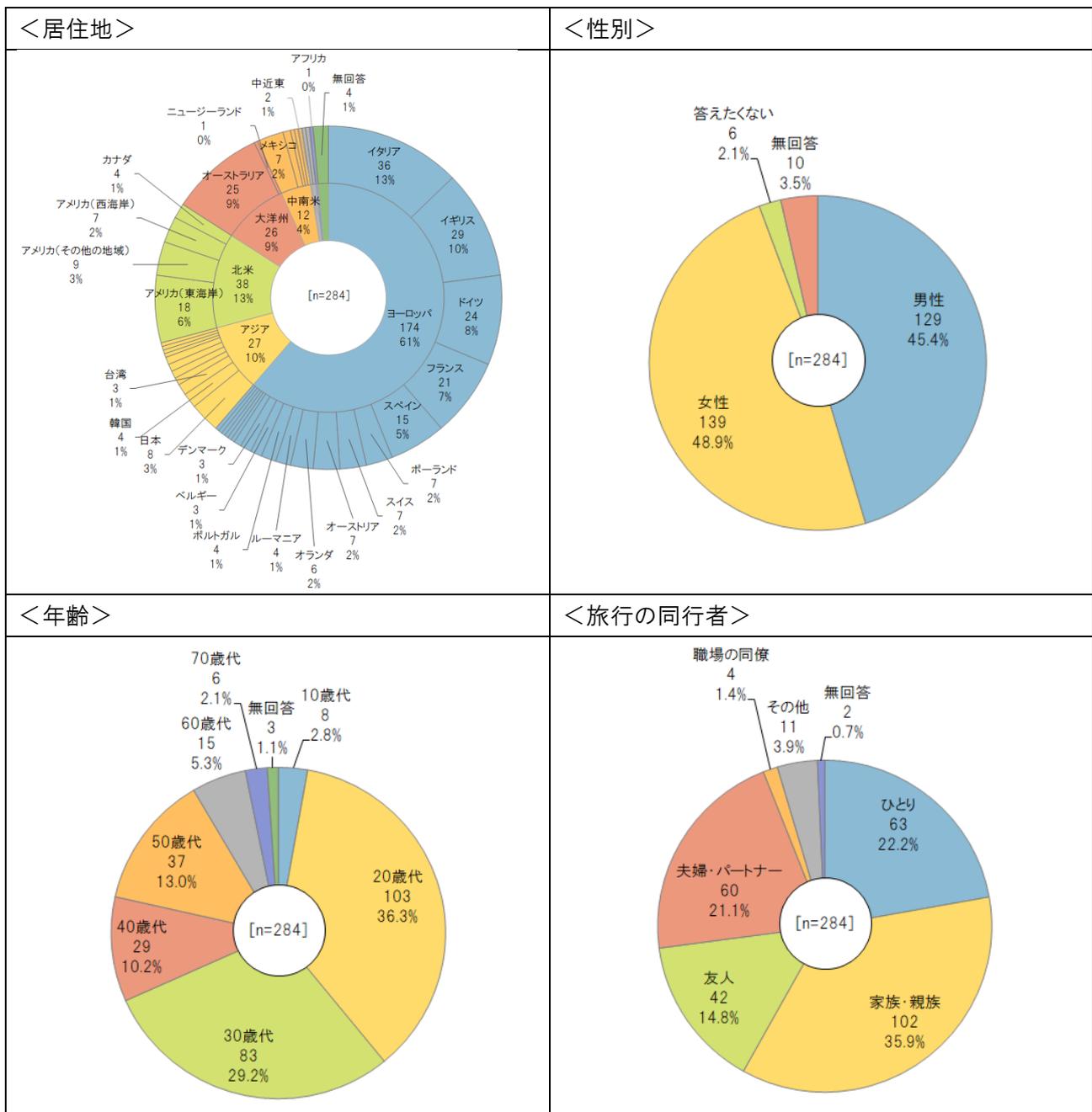
### (1) 外国人観光客の動向調査

#### ① 広島駅・宮島

##### ■概要

対象者	広島駅・宮島を訪れた観光客
実施期間	2024（令和6）年8月24日（土）～8月25日（日） 9:00～17:00
回収数	8月24日（土）：136件（広島駅：56件、宮島：80件） 8月25日（日）：148件（広島駅：46件、宮島：102件）

##### ■回答者属性

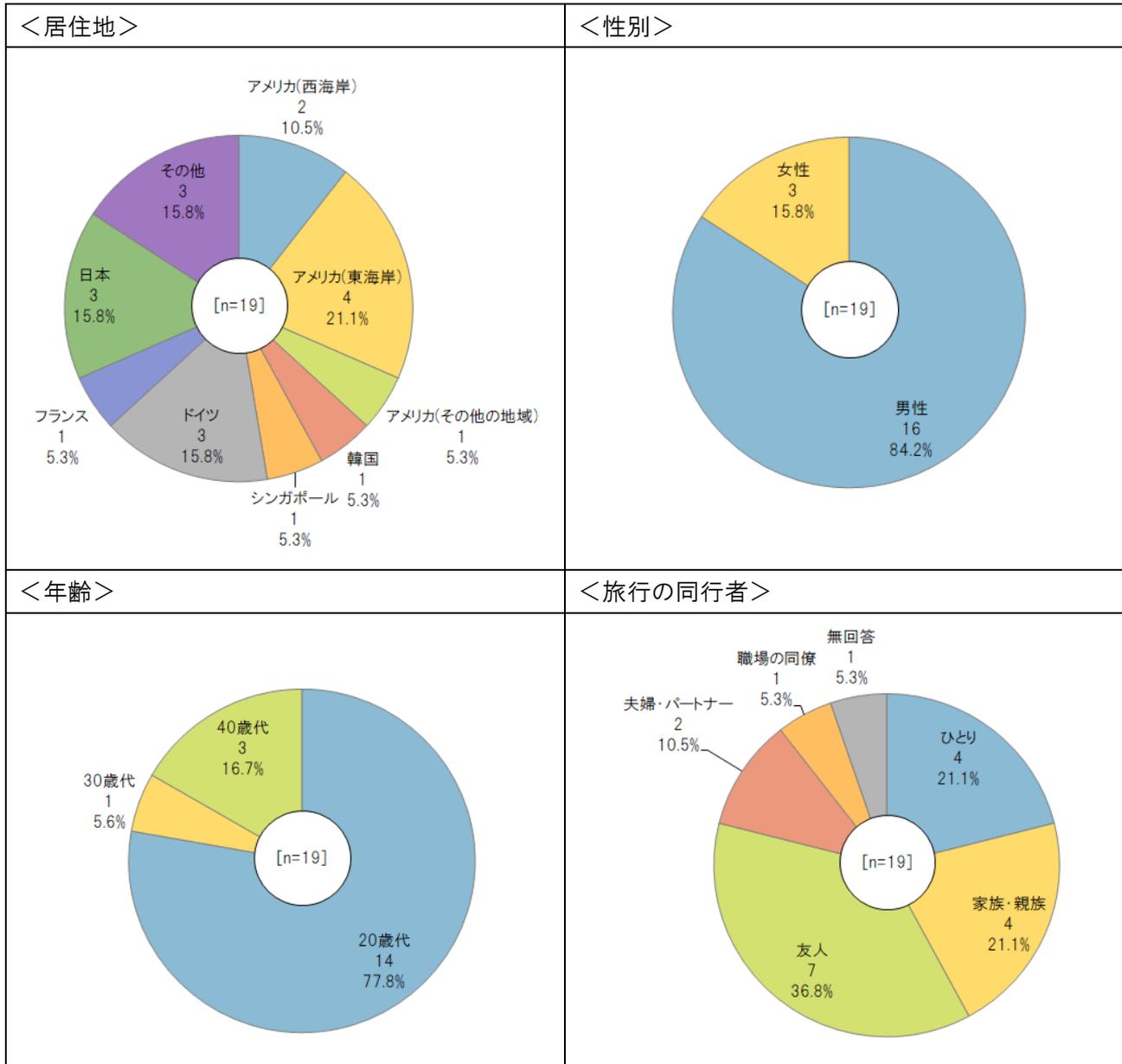


## ② 錦帯橋

### ■概要

対象者	錦帯橋を訪れた外国人観光客
実施期間	2024（令和6）年8月24日（土）～8月25日（日） 9:00～17:00
回収数	8月24日（土）：9件 8月25日（日）：10件

### ■回答者属性



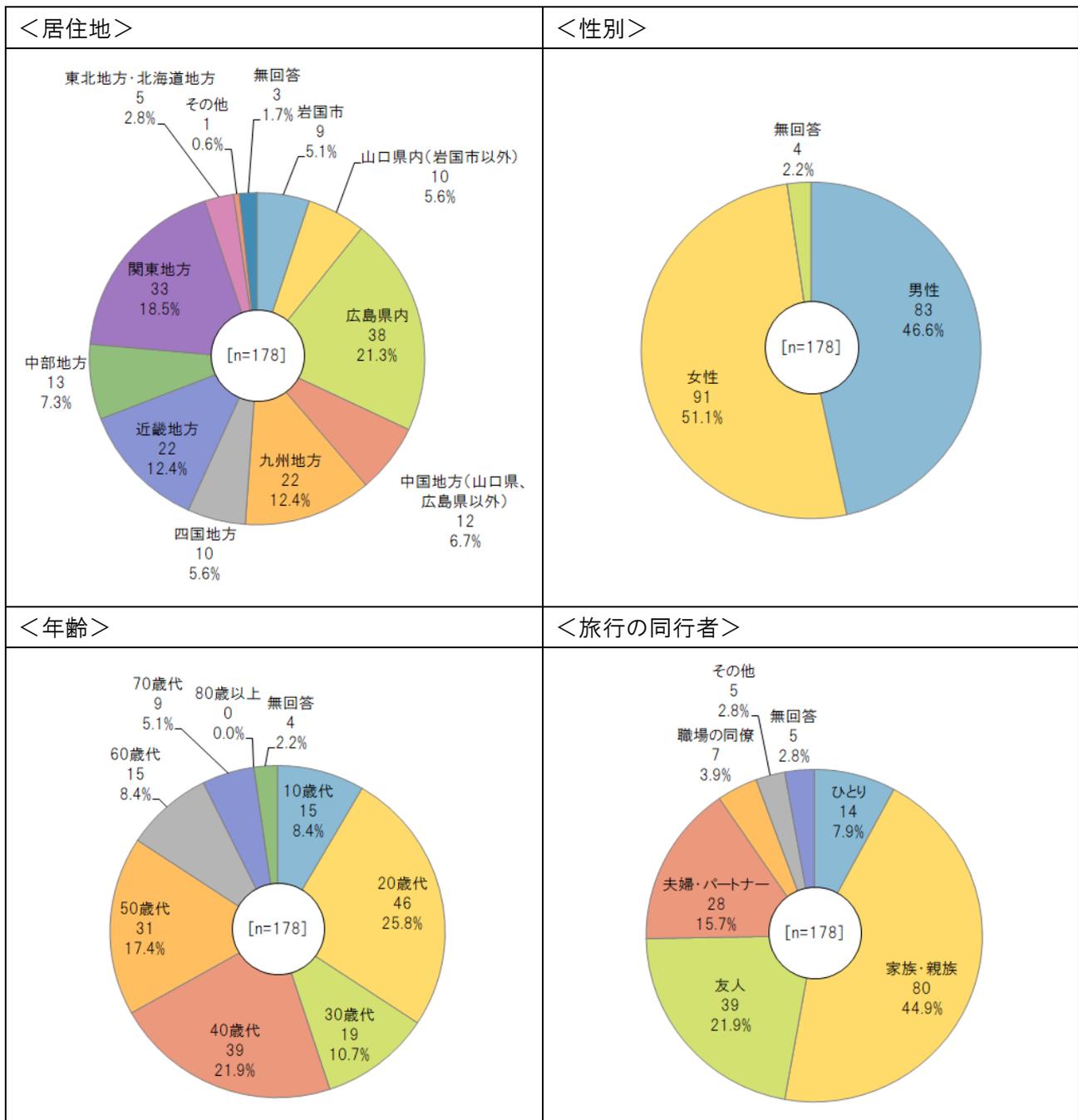
## (2) 日本人観光客の動向調査

### ① 錦帯橋

#### ■概要

対象者	錦帯橋を訪れた日本人観光客
実施期間	2024（令和6）年8月24日（土）～8月25日（日） 9:00～17:00
回収数	8月24日（土）：61件 8月25日（日）：113件

#### ■回答者属性



### 3. 観光事業者・団体ヒアリング

#### (1) 観光事業者

##### ■対象

岩国市観光協会/美和町観光協会/由宇町観光協会/周東町観光協会/錦川観光協会/岩国観光プロモーション推進協議会/岩国観光ガイドボランティア協会/やましる商工会/やましる体験交流協議会

##### ■ヒアリング結果

##### ①岩国市の観光の強み・弱み

観光の強み	観光の弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 錦帯橋や岩国城など有名な観光地がある</li> <li>● 史跡、名所、景勝が多く、観光資源が豊富である</li> <li>● 由宇とまとやマイヤーレモンなどの一次産業</li> <li>● 星がきれい</li> <li>● 海・川・山・島があり、アウトドア体験ができる</li> <li>● 体験ができる施設がある</li> <li>● 日本酒や観光列車がある</li> <li>● 潮風公園みなとオアシスゆうや広島東洋カーブ由宇練習場がある</li> <li>● 広島という大きな都市に近く山口県の観光の入り口になりやすい</li> <li>● 空港や新幹線駅があるなど、交通の便が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 錦帯橋周辺に魅力的な店舗が少ない</li> <li>● 公衆トイレの不足、老朽化している</li> <li>● 観光地にゴミ箱や休憩場所が少ない</li> <li>● 宿泊施設が少なく、滞在型観光ができない</li> <li>● 修学旅行でも通過型の観光になっている</li> <li>● 「食」の魅力に欠ける</li> <li>● 繁忙期と閑散期の差が激しく、冬の時期の観光が弱い</li> <li>● 二次交通の不便さがある</li> <li>● 公共交通機関が不十分であるため、自家用車やレンタカーでの移動が必要</li> <li>● 公共交通機関利用者への観光地への案内が難しい</li> <li>● 観光事業者の不足や高齢化が進んでいる</li> <li>● キャッシュレスの導入が進んでいない</li> <li>● 錦帯橋周辺とその他地域の連携が低い</li> <li>● 岩国市の魅力の情報発信や広報ができていない</li> </ul>

##### ②岩国市の観光の課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光資源の活用ができていない</li> <li>● 海・川・山・島などの資源が活用できていない</li> <li>● 錦帯橋の駐車場の整備が必要</li> <li>● 公衆トイレの不足と老朽化</li> <li>● 宿泊施設が少ない（美和町・錦町には宿泊施設や民泊がない）</li> <li>● 観光事業者や後継者が不足している</li> <li>● 体験事業の不足</li> <li>● 民間が実施する施策に対するバックアップが必要</li> <li>● ボランティアガイドの不足</li> <li>● ボランティアガイドとして継続的に動いてもらえない</li> <li>● 個々の観光資源について話せる人はいるが、通して話せる人はいない</li> <li>● 夜間営業をしている店舗が少ない</li> <li>● 二次交通の不便さと不足</li> <li>● キャッシュレスの導入が進んでいない</li> <li>● 岩国市内での観光振興の統一性</li> <li>● 岩国市に立ち寄ってみようと思えるイベントや観光資源が必要</li> <li>● 30分から1時間で移動でき、体験できるところの周知ができていない</li> <li>● 時期に応じた観光のPRが不足している</li> <li>● 観光情報の一元化がされていない</li> </ul>
--

### ③岩国市の観光振興に向けて重点的に取り組むべきこと

- 岩国市全体のイメージアップ
- 駐車場や公衆トイレの整備、ごみ箱の設置等、観光客が安心して来れる環境整備、体制づくり
- 市内で周遊ができるようにする
- 酒蔵の歴史的背景について話すこと
- 魅力的な宿泊施設が少ない
- お土産の季節限定の限定価格を高める
- 資源を活用し、教育面での活用も検討する
- 外国人観光客の岩国駅からバスのアクセスをわかりやすくする
- 鉄道を利用する人のための川西駅から錦帯橋までのアプローチロードの整備
- 錦川清流線の存続、維持に向けた取組の実施
- 若い世代と連携した観光振興
- 観光に関わる人材の教育
- 外国語の表示や外国語の話せるガイドの配置
- 観光協会の統一、合併、連携
- 市内事業者のつながりをつくるべきである
- キャッシュレス化
- 事業者間が連携し、発信を行い、岩国市への来訪につなげる
- 県内外への観光のPR、情報発信
- 広域での観光戦略、観光宣伝が必要

## (2) 旅行者

### ■対象

清流線トラベルサービス/㈱日本旅行岩国支店/㈱JTB 山口支店

### ■ヒアリング結果

#### ①近年の旅行者ニーズの変化

- 大人数から少人数での申し込みが増えた
- コロナ後から宿泊旅行から日帰り旅行に変わった
- 観光地を巡るより見学が増えた
- サステナブルツーリズムへの意欲
- 富裕層ではワーケーションやブリージャーへの関心が高い
- キャッシュレスが当たり前
- タビマエ、タビナカ、タビアトでそれぞれ SNS を活用している

#### ②岩国市への旅行者の特徴やニーズ

- 岩国市の観光で満足度の高い項目は「まちの景観・雰囲気」「地域での観光、活動、体験」「地域の自然」である。一方で「地域の人とのふれあい」「まちのにぎやかさ」「地域の温泉」「宿泊施設」「地域の物産」「地域の認知度・興味度」が平均よりも低い
- 高齢者が多く、あまり歩かないで行ける観光地や安価な工場見学の希望が増えた

#### ③岩国市の観光の強み・弱み

観光の強み	観光の弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 錦帯橋が有名なため、その見学と合わせてほかの観光地の見学ができる</li> <li>● 歴史・文化施設がある</li> <li>● 豊かな自然がある</li> <li>● 日本酒が有名</li> <li>● 相乗効果が期待できる</li> <li>● 岩国錦帯橋空港が市内近くにある</li> <li>● 関東からは便利な立地である</li> <li>● 全国的な有名観光地（宮島）に近い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 酒どころとしての認知が低い</li> <li>● 錦帯橋エリアを周遊する面的取組が少ない</li> <li>● 団体客で宿泊できる宿泊施設が少ない</li> <li>● 車中心の観光地である</li> <li>● 近隣都市から、車、JR の利用でも 1 時間以上かかる</li> <li>● アクティビティ事業者が足りない</li> <li>● 観光地・施設のデジタル化が遅れている</li> <li>● 欧米向けのプロモーション不足と受入来制整備</li> </ul>

#### ④岩国市の観光のターゲットにすべき属性

- 高齢者、修学旅行生、若い個人の旅行者
- 関東在住者
- 米国人
- 富裕層

#### ⑤岩国市の観光振興に向けてすべき取組

- きずなスタジアムの利用
- 宿泊施設の増加
- 旅行会社へのバスツアー補助金や岩国市への送客支援
- 効果的・効率的なプロモーションの実施

### (3) 観光プレーヤー

#### ■対象

酒井酒造/村重酒造/橋の駅 カフェいつぱし/潮風公園みなとオアシスゆう/錦川鉄道株式会社/  
清流の郷/美川ムーバレー/里山カフェ HAKU/らかな高原

#### ■ヒアリング結果

##### ①岩国市の観光の強み・弱み

観光の強み	観光の弱み
<ul style="list-style-type: none"><li>● 錦帯橋、岩国城がある</li><li>● 自然が豊か</li><li>● 「古き良き時代」の何かが残っている</li><li>● 錦帯橋周辺に観光名所が集中している</li><li>● 空港が市街地に近い</li><li>● 人材は少ないが一人一人の力が強い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 錦帯橋しかない</li><li>● 通過型観光地である</li><li>● 観光客の滞在時間が短い</li><li>● リピーターの獲得不足</li><li>● 里山でも宿泊できるところの広報の不足</li><li>● 周辺地域との公共交通網が不十分である</li><li>● 人材が少なく、1人当たりの負担が大きい</li><li>● 周辺地域との連携不足</li><li>● 情報発信や広報の不足</li></ul>

##### ②岩国市の観光の課題

- 駐車場の整備
- 錦帯橋周辺に観光地が集中しているため、滞在時間が短い
- 市域が広域である
- 宿泊施設が少ない
- 通過型観光になっている
- 交通が不便
- 各地域の観光資源が分散しており、連携が不足している
- 広報ができていない

##### ③岩国市の観光振興に向けて必要な取組

- ナイトツーリズムの推進
- パッケージツアーの開発
- まちの活性化
- 滞在時間の延長
- JR 岩国駅、JR 新岩国駅、錦帯橋空港を結ぶ新たな交通手段の検討
- 人材育成
- 観光協会の一本化
- 多様な観光客の誘致
- 錦帯橋周辺の観光中心地と玖北・玖西・由宇など周辺地域との連携
- 岩国市のPR
- 一元化された情報発信

##### ④岩国市観光ビジョンに期待すること

- 各地域の特色を明らかにできるような方向性にする
- 新しい企画より今ある資材を活かせるようにすること
- 農業、漁業観光の推進
- 持続可能な観光の確立
- 多様な観光客の誘致
- 地域住民との共生
- 里山にも目を向け、体験すること、場所を広報してほしい

